

復興に関する町民アンケート 集計結果



福島県浪江町

平成23年12月16日 公表

調査概要

➤ 調査目的

福島第一原発事故により避難生活を送られる町民の皆様の、避難生活での課題や要望、浪江町への帰還に対する意識、今後の復旧・復興への意見を把握するために実施しました。

➤ 調査対象

高校生以上の全町民

➤ 調査方法・時期

郵送により配布、回収(平成23年11月)

➤ 配布数・回収数

配布数	回収数	回収率
18,448	11,001	59.6%

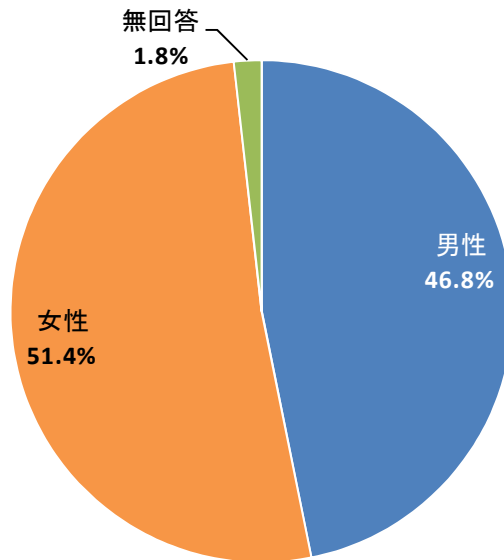
➤ その他

設問の終わりに(複数回答)とある問は、1人の回答者が複数の回答をしているため、回答の合計比率が100%を超える場合があります。

問1 アンケート調査対象者

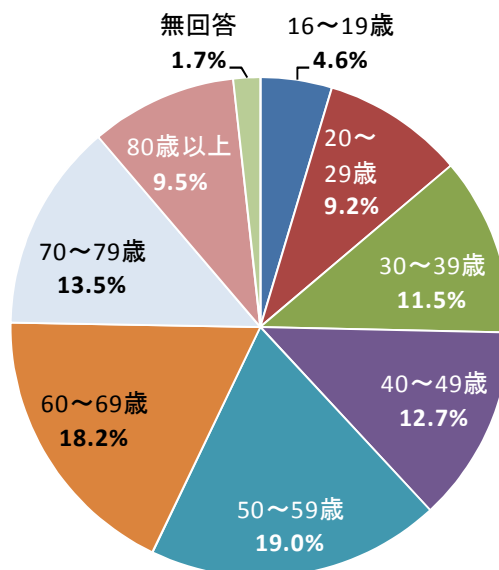
問1 性別

- ・世帯単位ではなく、高校生以上の全町民を対象に実施した結果、回答者の性別に大きな偏りはない。



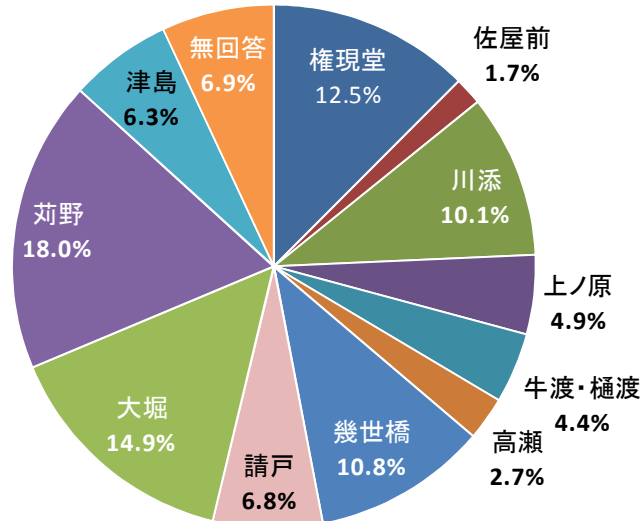
問1 年齢層

- ・世帯単位で実施した福島大学のアンケート(男性、高齢者中心)と比較すると町民の人口構成が反映されている。



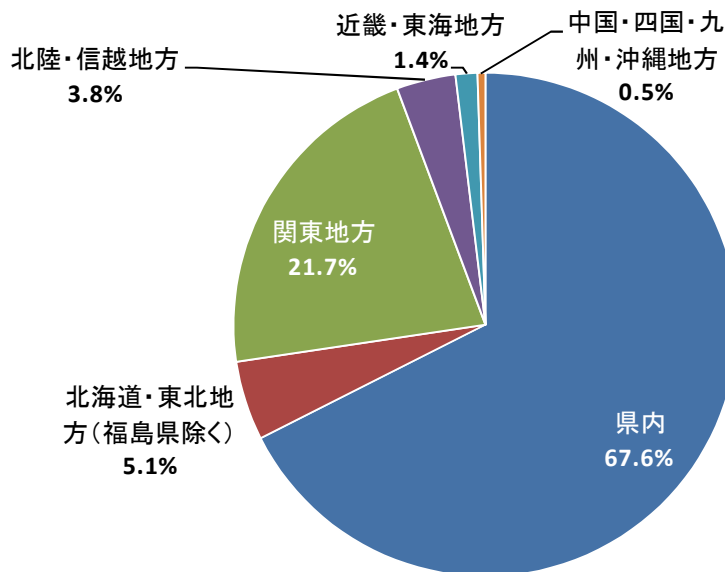
問1 浪江の居住地区

- ・「苅野」(18.0%)、「大堀」(14.9%)、「権現堂」(12.5%)、「幾世橋」(10.8%)、「川添」(10.1%)の順で回答が多い。



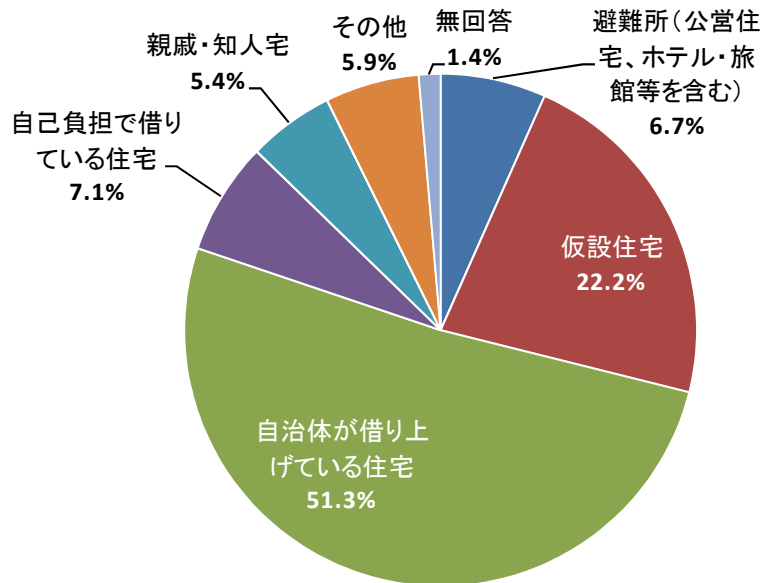
問1 避難先の都道府県

- ・「県内」が(67.6%)と町民の半数以上は福島県内に避難している。次いで、「関東地方」が(21.7%)と多い。



問1 避難先の住居種別

・「自治体が借り上げている住宅」が半数強(51.3%)を占める。「仮設住宅」は22.2%である。

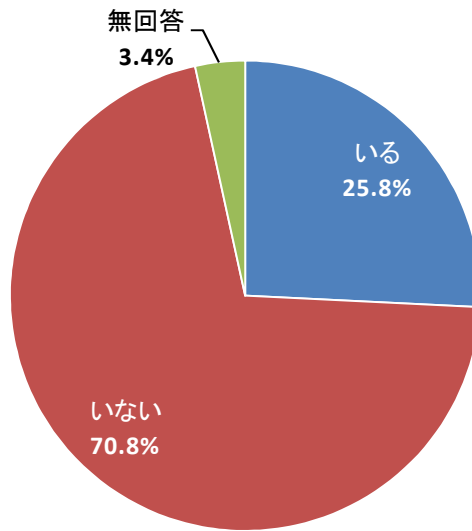


○「その他」の記述

- ・寮、社宅、会社等が用意した住宅(69件)
- ・特別養護老人ホーム、救護施設(28件)
- ・病院(15件)
- ・親族と同居、実家(15件)
- ・持家(15件)
- ・雇用促進住宅、公営住宅(14件)
- ・ボランティア住宅、震災ホームステイ(5件)
- ・一部負担
- ・アパート、マンション
- ・無償で借りている住宅
- ・自分で見つけた住宅
- ・賃貸住宅
- ・民間の借り上げ住宅
- ・無償で借りているマンション
- ・友人宅

問1 18歳未満のお子さんの有無

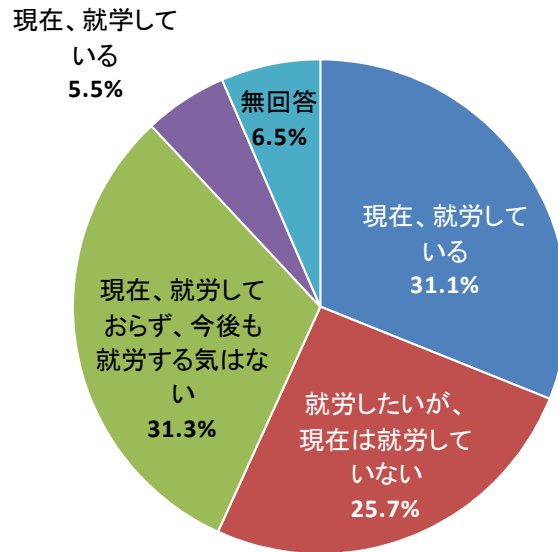
・18歳未満のお子さんが「いる」は25.8%、「いない」は70.8%である。



問2 就労・就学と避難生活状況

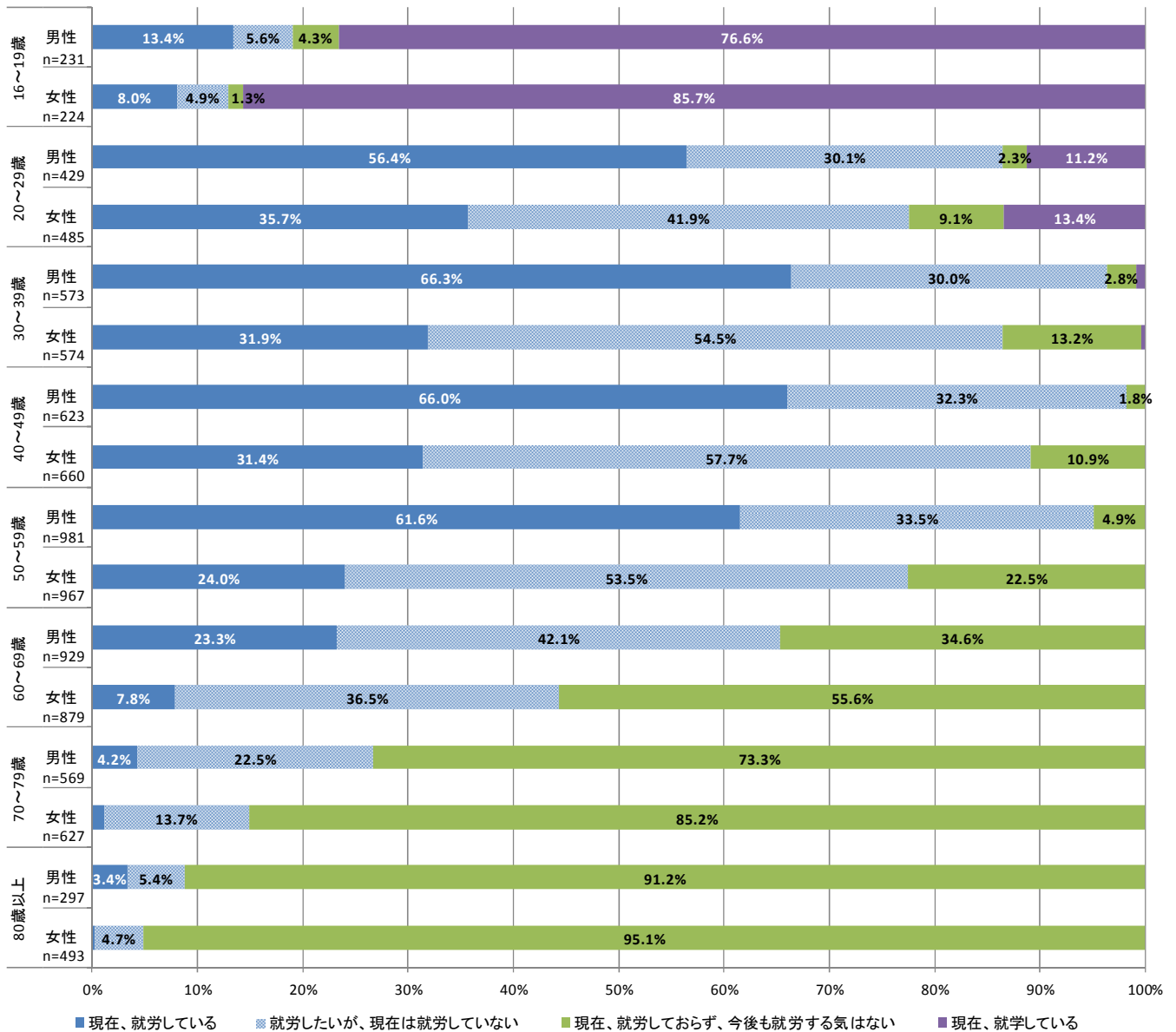
問2-1 現在、あなたは就労・就学していますか。

- ・「現在、就労している」は31.1%、一方「就労したいが、現在は就労していない」は25.7%である。また、「現在、就労しておらず、今後も就労する気はない」は31.3%である。



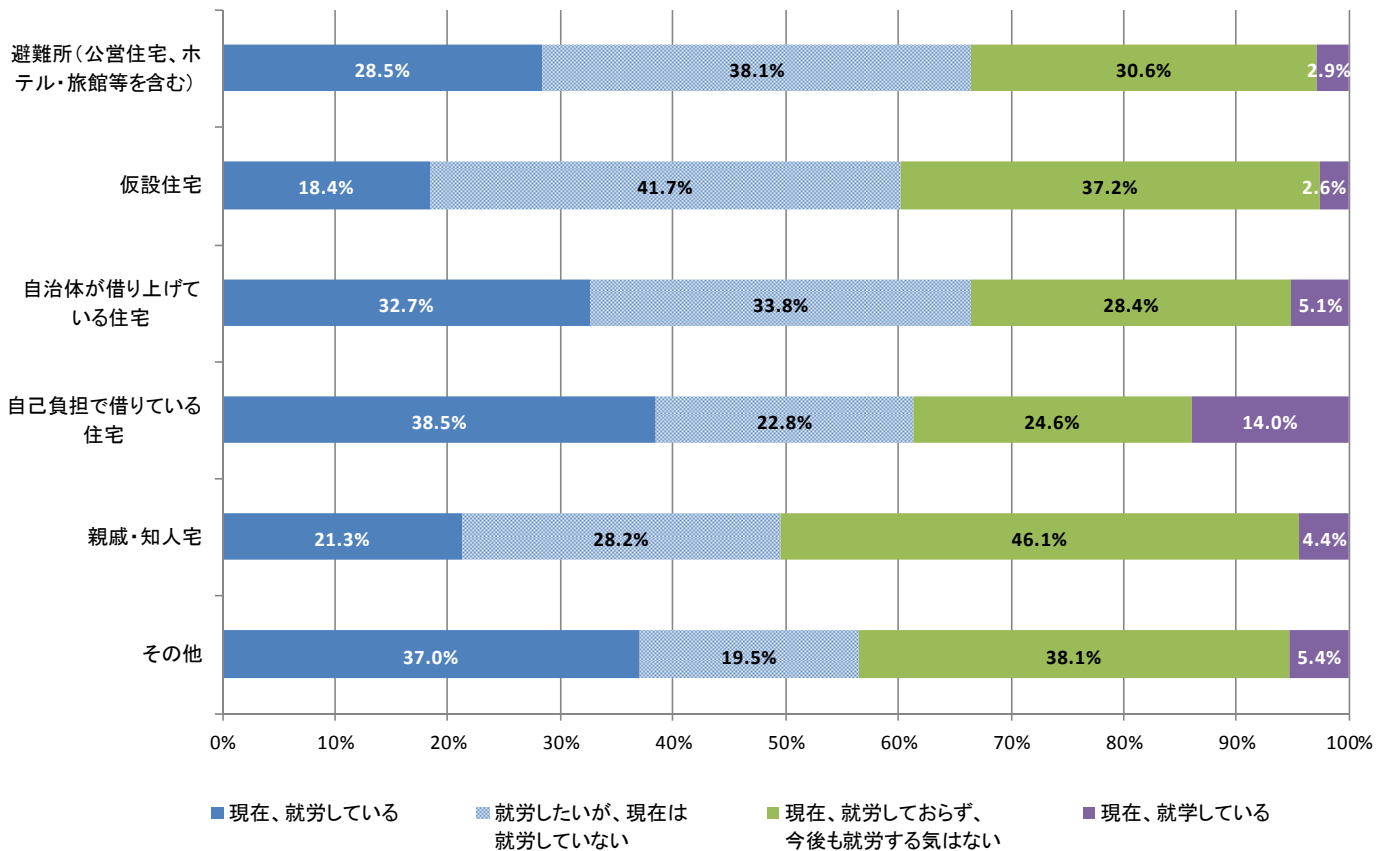
問2-1-①就労・就学状況(性別、年齢別)

- ・20～50歳代の男性では「現在、就労している」が6割前後、「就労したいが、現在は就労していない」が3割強である。また、「現在、就労しておらず、今後も就労する気はない」は数パーセントに留まる。
- ・一方、同世代の女性では「現在、就労している」が2～3割に留まり、「就労したいが、現在は就労していない」が5割前後と高い。男性よりも就労状況が厳しいことがうかがわれる。
- ・60～69歳では「就労したいが、現在は就労していない」が男女ともに4割強である。70歳代以上では「現在、就労しておらず、今後も就労する気はない」が7～9割と高い。



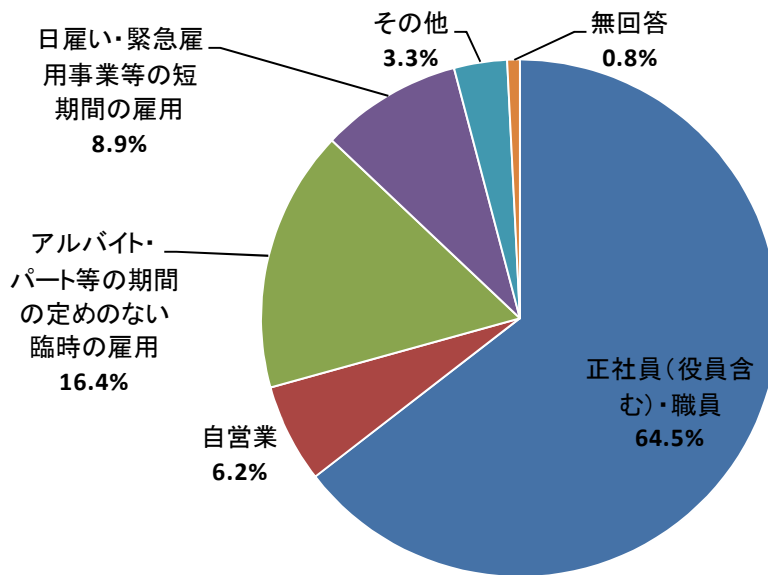
問2-1-②就労・就学状況(避難先の居住別)

- ・「自己負担で借りている住宅」「その他」では「現在、就労している」とする比率が4割弱と高く、「就労したいが、現在は就労していない」は2割前後に留まる。「自治体が借り上げている住宅」は「現在、就労している」が32.7%、「就労したいが、現在は就労していない」も33.8%と拮抗する。一方、「仮設住宅」は「就労したいが、現在は就労していない」が41.7%と高く、「現在、就労している」は18.4%に留まる。仮設住宅居住者の就労支援が特に重要である。



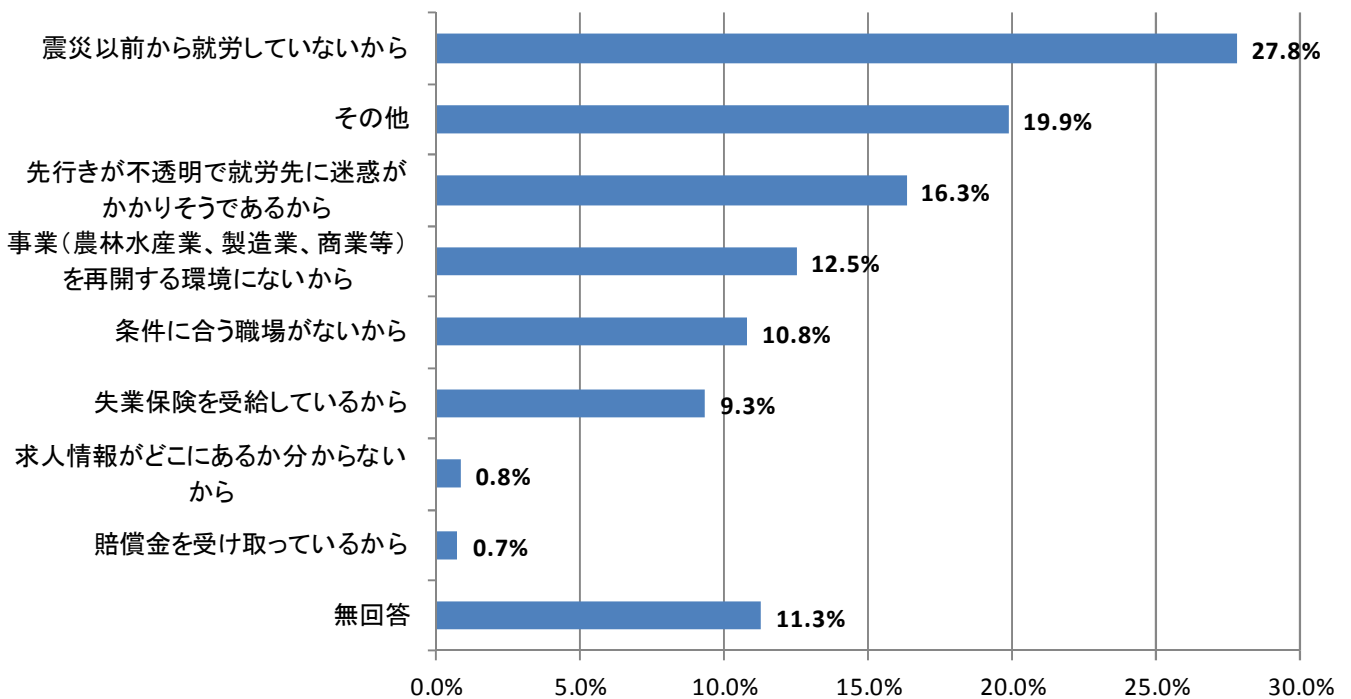
問2-2 現在、就労している方にうかがいます。あななの就労形態について教えてください。(n=3,083人)

- ・「正社員・職員」が64.5%と半数以上を占める。「アルバイト・パート等の期間の定めのない臨時の雇用」は16.4%、「日雇い・緊急雇用事業等の短期間の雇用」は8.9%と少ない。



問2-3 就労していない方にうかがいます。就労していない理由について教えてください。(n=6,732人)

- ・「震災以前から就労していない」が27.8%と最も多い。一方、震災以前は就労していたのに現在就労しない理由としては、「先行きが不透明で就労先に迷惑がかかりそう」(16.3%)、「事業を再開する環境にない」(12.5%)、「条件に合う職場がない」(10.8%)など、多様である。
- ・「失業保険を受給している」は9.3%、「賠償金を受け取っている」は0.7%と少ない。



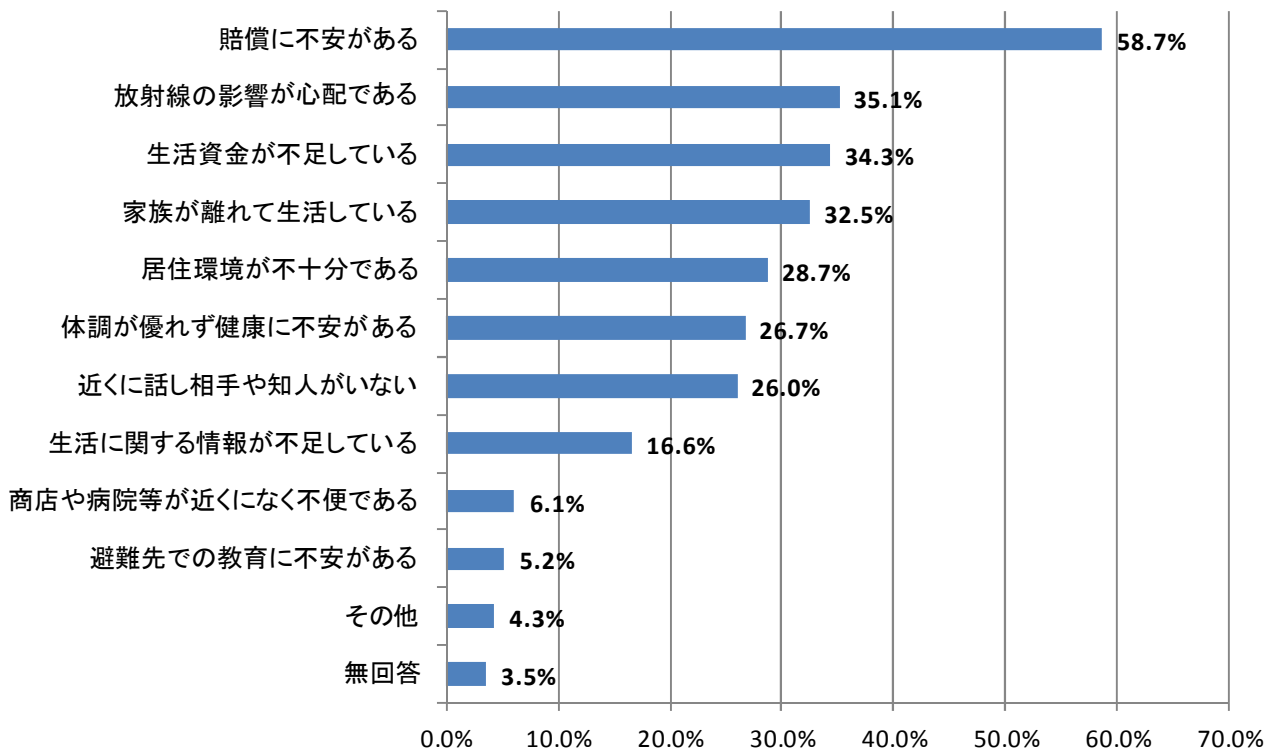
○「その他」の記述(1,338件)

- ・高齢のため。(290件)
- ・病気、体調不良ため。(91件)
- ・子供が小さい、預ける場所がない。面倒を見てくれる人がいない。(78件)
- ・年金受給のため。(60件)
- ・親族の介護、要介護、障害がある、看病などで就労できない。(47件)
- ・会社が休業中のため。(45件)
- ・就労先が見つからない。(20件)

- ・専業主婦のため(15件)
- ・妊娠しているため。(13件)
- ・働く気になれない。(11件)
- ・生活が落ち着かない。先が不安だから。(10件)
- ・農業をされていて避難先では農業が出来ない。(10件)
- ・就労先が移転したり通勤が困難なため。(7件)
- ・自営業のため避難先で仕事がない(補償もない)。(7件)
- ・休業手当があるため。(6件)
- ・東電の賠償に影響するから。(3件)
- ・専門職の求人がない。(2件)
- ・「いずれ帰るだろう」との理由で不採用になる。
- ・採用結果待ち。内定有り。
- ・資金繰りができない。
- ・進学予定だったが、今回の件で就職しなければいけなくなった。

問2-4 現在の避難生活でお困りのことは何ですか。(複数回答)

・「賠償に不安がある」(58.7%)が最も多い。このほか「放射線の影響が心配」(35.1%)、「生活資金が不足している」(34.3%)、「家族が離れて生活している」(32.5%)、「居住環境が不十分である」(28.7%)など、困りごとは多様である。



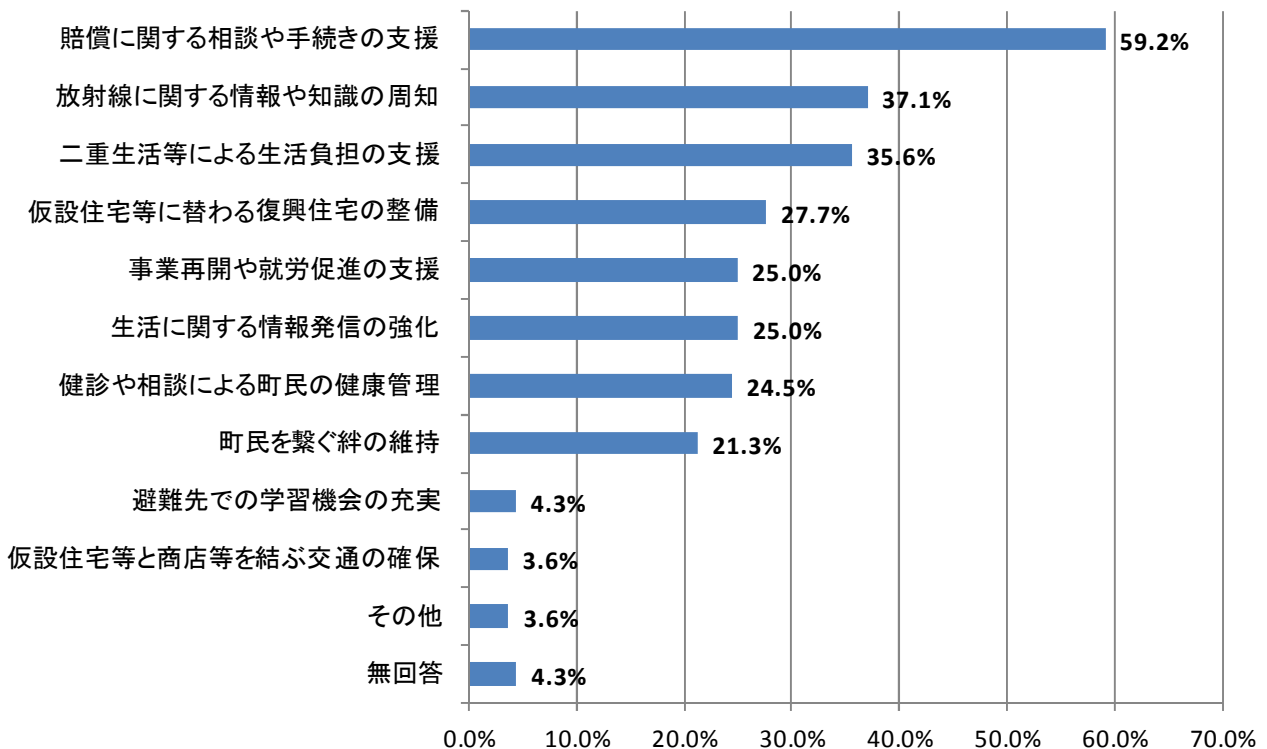
○「その他」の記述

- ・先が見えず不安。避難によりストレスがたまる。(58件)
- ・情報提供不足、支援の格差を感じる。(23件)
- ・仮設住宅等の部屋が狭い(収納スペースがないなど)。また、生活騒音がひどい。(21件)
- ・全て困っている。(20件)
- ・いつ浪江にもどれるのか不安。またその後の生活も不安。(12件)
- ・勤務地までが遠い。(12件)
- ・中通りの冬の生活が不安。(10件)
- ・介護の充実など高齢者のケアが不安。(10件)

- ・就労先がない状況で就労できるか。(9件)
- ・学校(サテライト校含め)が遠い、子供の将来や学習機会の不安。(9件)
- ・家族や自分の健康不安。(8件)
- ・一時帰宅の回数が少ない。荷物の制限への不満。もっと自由に出入らせてほしい。(7件)
- ・家族が同居または離れて生活している弊害。(7件)
- ・住宅ローン等の支払い。(6件)
- ・借上住宅の居住年数への不安。(5件)
- ・国、東電への信頼性や不満。(5件)
- ・近くに友人がいない。(3件)
- ・ペットを飼育できる環境にない。(3件)
- ・交通の便が悪い。(2件)
- ・被災者と明かされていること。
- ・役場が遠い。出張所がない。
- ・帰町としか言わない浪江町。
- ・あらゆる公の機関の対応の鈍さと非柔軟性と遅さ。
- ・お墓参りができない。

問2-5 避難生活の改善、向上に向け、どのような施策が必要ですか。(複数回答)

・「賠償に関する相談や手続きの支援」(59.2%)が最も多い。このほか「放射線に関する情報や知識の周知」(37.1%)、「二重生活等による生活負担の支援」(35.6%)、「仮設住宅に替わる復興住宅の整備」(27.7%)が多く、困りごとを解決するための施策が求められている。



○「その他」の記述

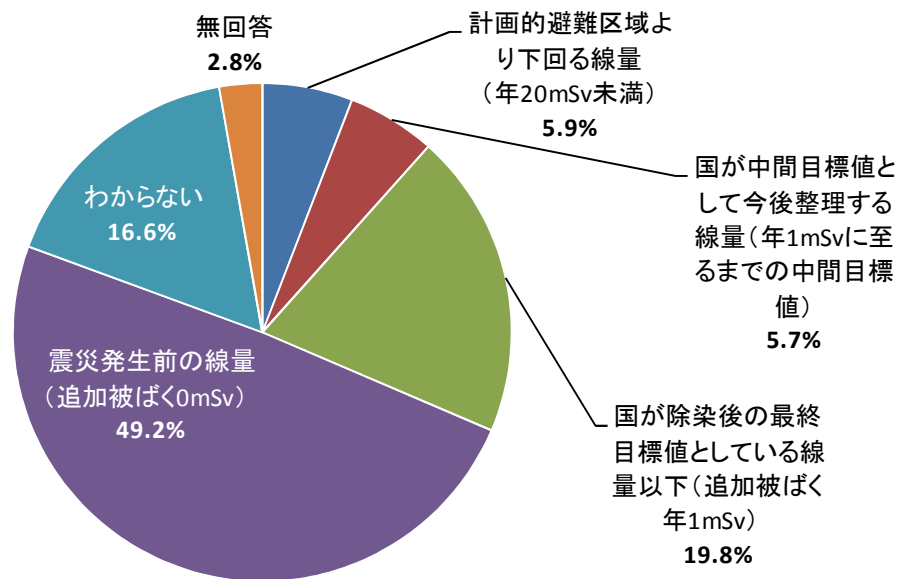
- ・支援格差(物資、情報提供)の解消(41件)
- ・先の見通しを示してほしい(22件)
- ・賠償対策を重視すべき(22件)
- ・全て必要(15件)
- ・仮設住宅等での居住スペースの拡大、防寒、防音対策をしてほしい(13件)
- ・借上げ住宅(県外、県内)、仮設住宅の居住期限の延長(12件)
- ・住居移転の制限緩和、借上げ住宅限度額の緩和や充実した住居提供情報(9件)

- ・町民が集まれる機会づくり(8件)
- ・二重ローン(住宅ローン含む)免除や減免などの対策。(8件)
- ・福祉施設、高齢者のケアを充実。(8件)
- ・町のインフラ整備や除染の実施。(7件)
- ・新しい土地での生活支援。(6件)
- ・避難生活中のさまざまな支援充実。(4件)
- ・自立支援の充実。(4件)
- ・各家庭へ線量計の配布。(4件)
- ・一時立入の継続的な実施と広野方面からの立入を許可して欲しい。(2件)
- ・子供のメンタルケアやサポートを充実。
- ・浪江の時と同等な生活がしたい。
- ・警戒区域のパトロール強化。
- ・町内にいる家畜の処分。
- ・行政の住民に対する対応。
- ・放射能の影響で将来結婚できないかもしれない。

問3 浪江町への帰還について

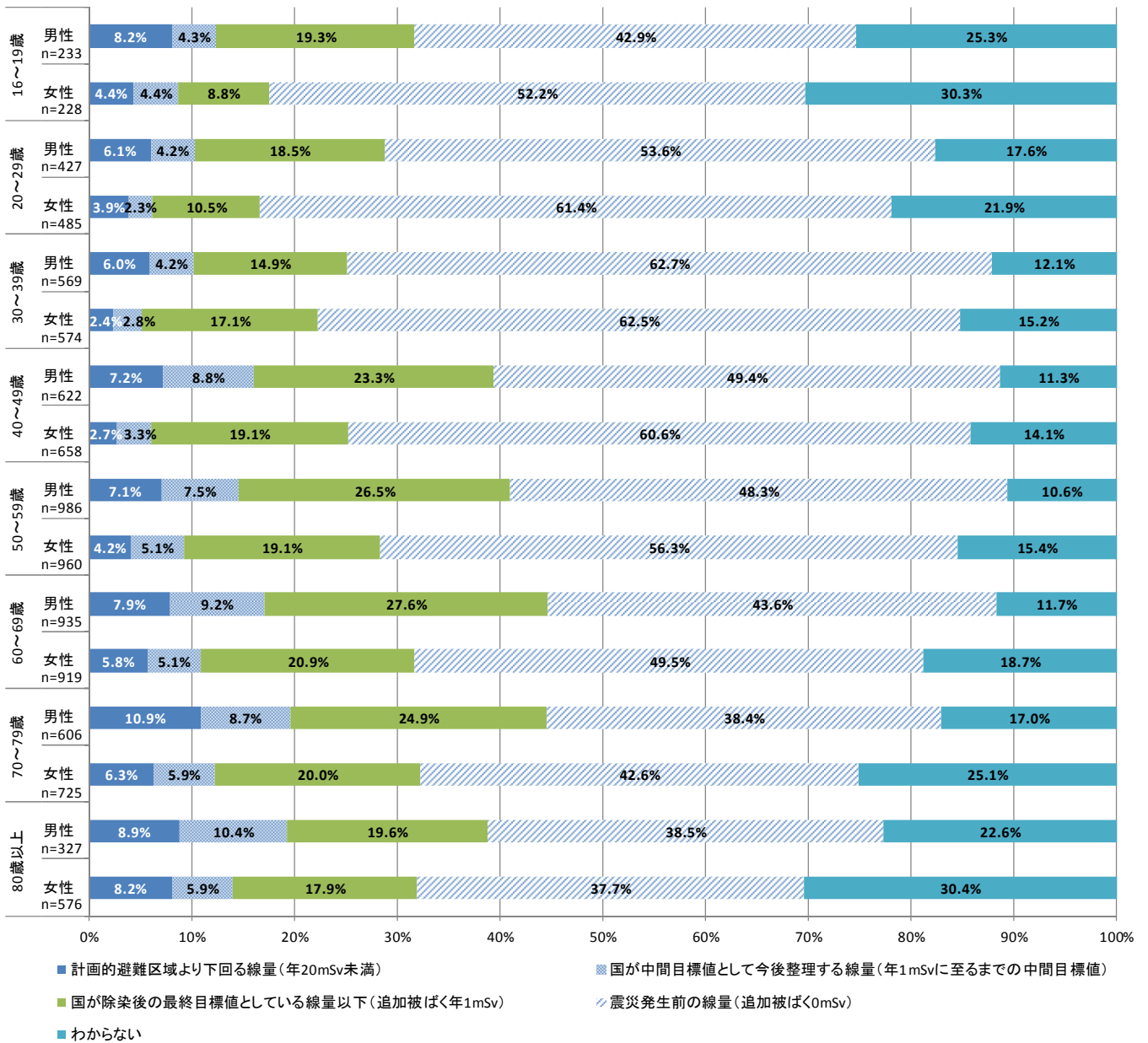
問3-1 現段階において、放射線量だけを考えた場合、戻っても良いと考えられる放射線量の水準はどのくらいですか。

- ・「震災発生前の線量(追加被ばく0mSv)」が49.2%と最も多く、半数近くを占める。次いで「国が除染後の最終目標値としている線量以下(追加被ばく年1mSv)」(19.8%)である。



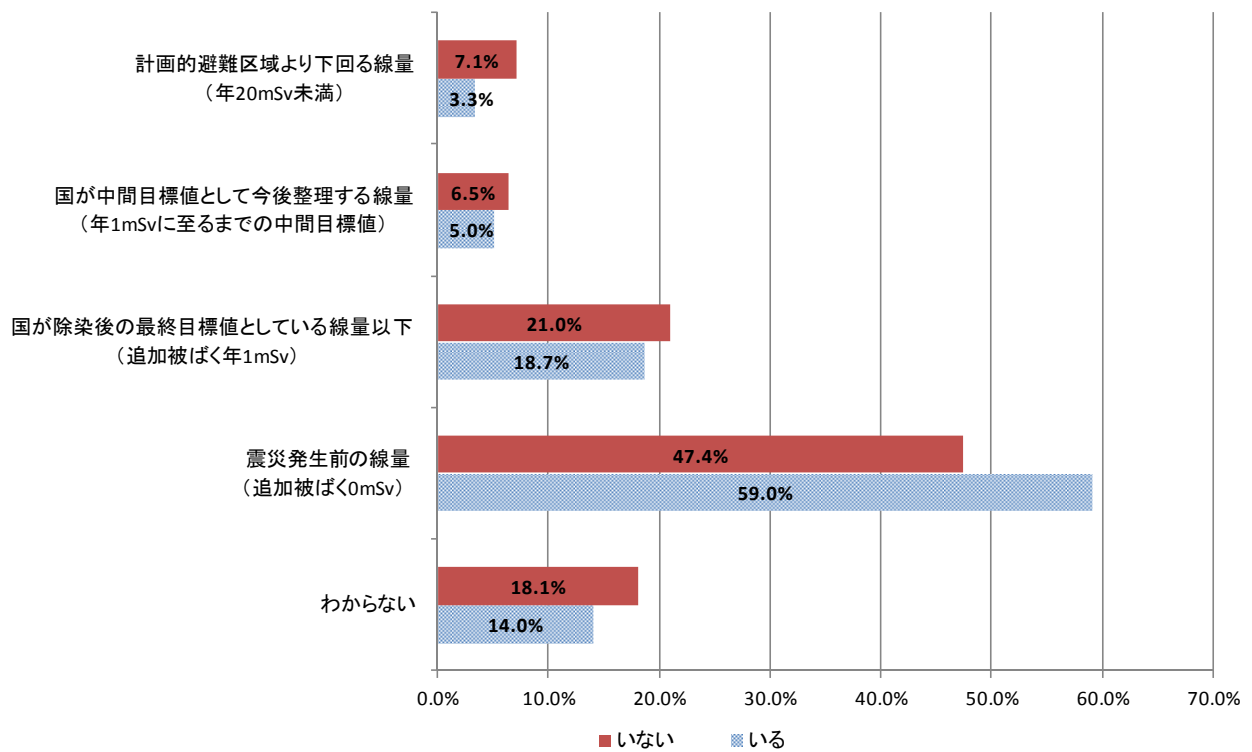
問3-1-①【戻っても良いと考えられる放射線量の水準(性別、年齢別)】

- ・戻っても良いと考えられる放射線量は、子育て世代である「30～39歳」が最も低い(「震災発生前の線量(追加被ばく0mSv)」が、男性が62.7%、女性が62.5%と最も高い)。
- ・また、男性よりも女性の方が、戻っても良いと考えられる放射線量が低い。



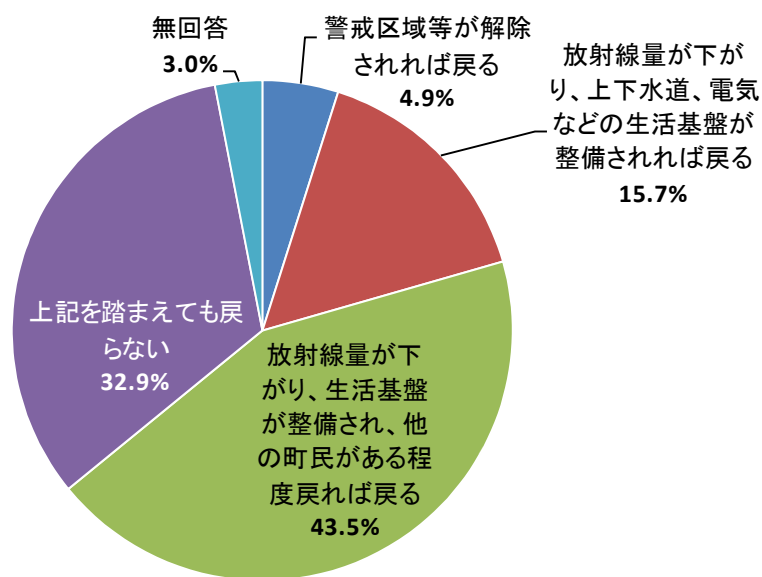
問3-1-③【戻っても良いと考えられる放射線量の水準(18歳未満の子供の有無)】

・18歳未満の子供がいる人の方が、戻っても良いと考えられる放射線量が低い(「震災発生前の線量(追加被ばく0mSv)」は、「いない」が47.4%に対し「いる」が59.0%と高い)。子供に対する放射線の影響を不安に思う町民が多い。



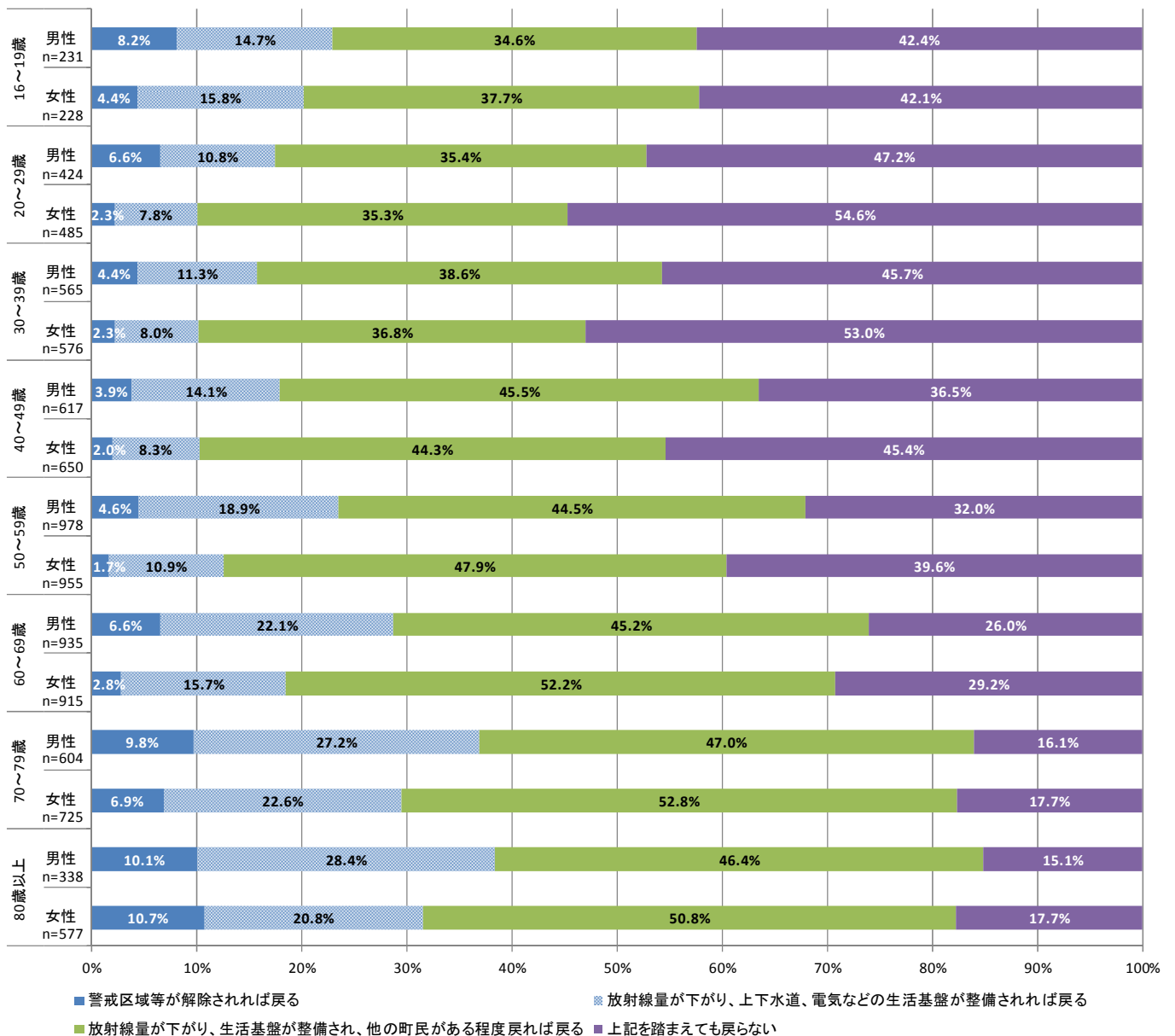
問3-2 あなたは浪江町に戻りたいと思いますか。

- 「放射線量が下がり、生活基盤が整備され、他の町民がある程度戻れば戻る」が43.5%と最も多く、半数近くを占める。また、「放射線量が下がり、上下水道、電気などの生活基盤が整備されれば戻る」は15.7%、「警戒区域等が解除されれば戻る」は4.9%であり、合わせると64.1%が条件さえ整えば「戻る」としている。一方、「戻らない」は32.9%である。
- 戻るのは難しいと思う理由は後段に計上。その分析が特に重要。



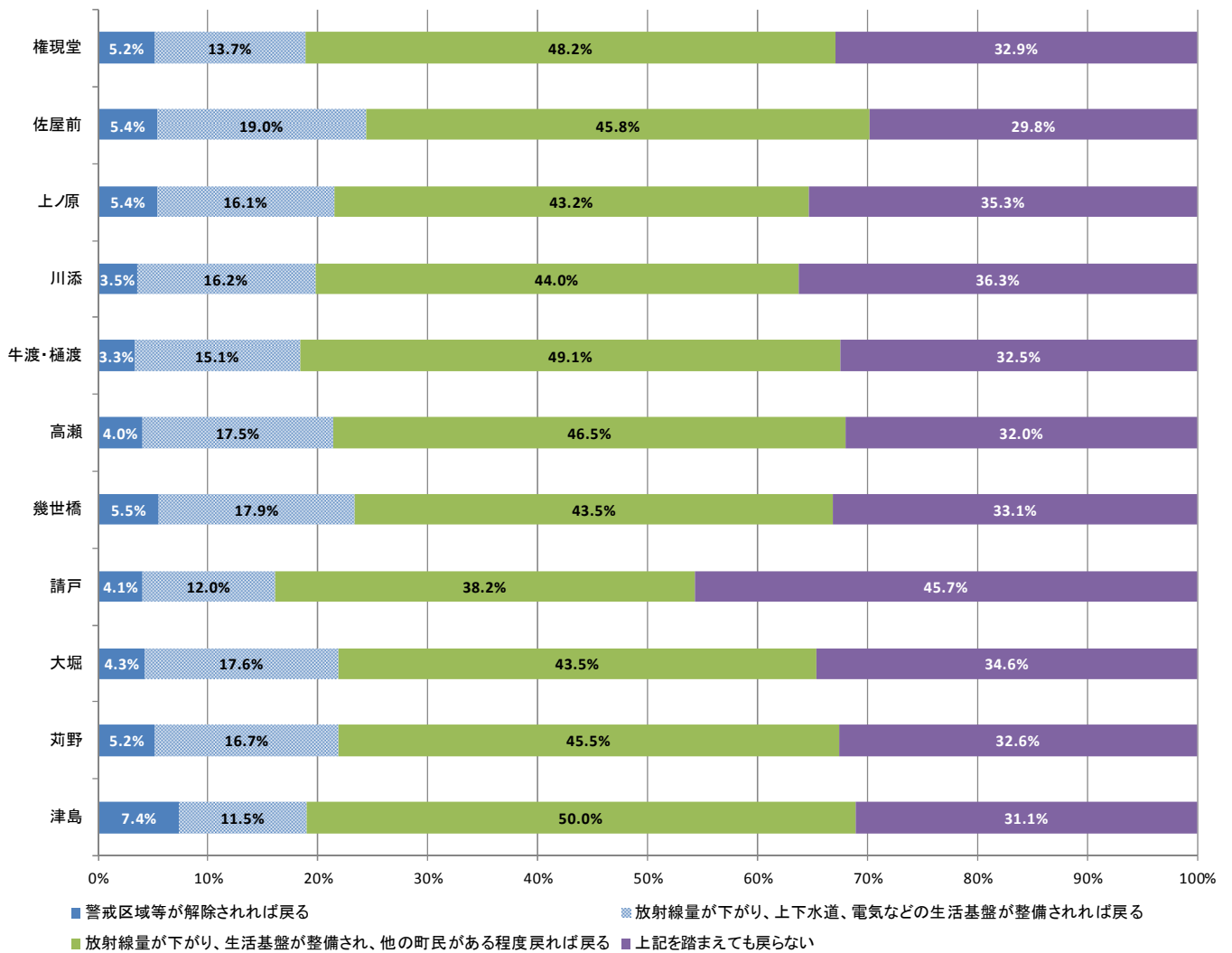
問3-2-①【帰還の意思(性別、年齢別)】

- ・「上記を踏まえて戻らない」は、男女ともに子育て世代である「20～29歳」「30～39歳」が高く、年齢層が高いほど低くなる。また、「16～19歳」は子育て世代より低い。
- ・また、男性よりも女性の方が、「上記を踏まえて戻らない」とする比率が高い。



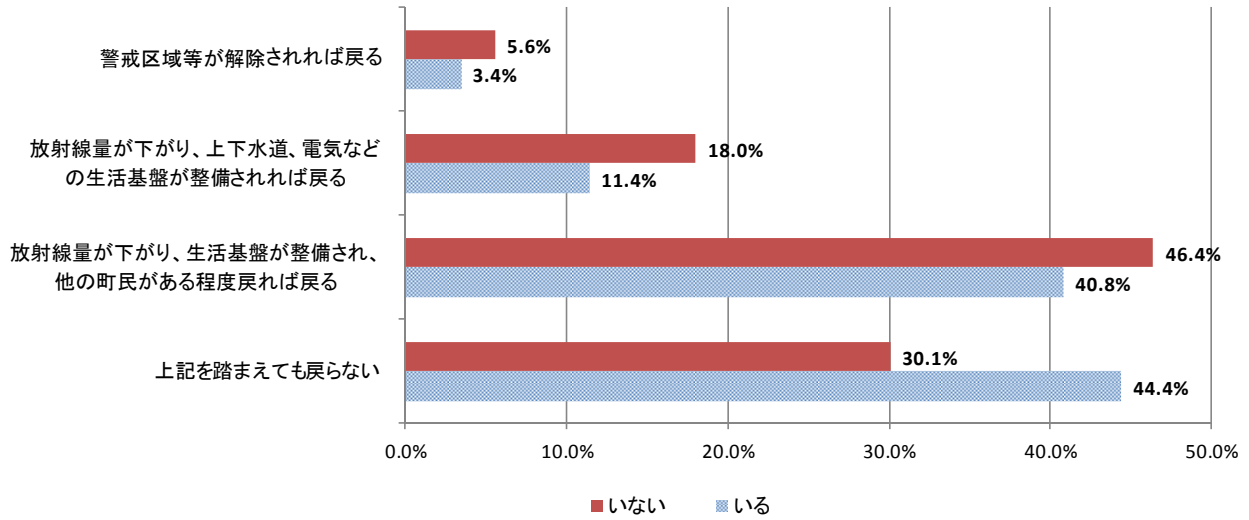
問3-2-②【帰還の意思(浪江の居住地区別)】

・津波の被害が大きい「請戸」は、「上記を踏まえて戻らない」とする比率が45.7%と高い（「請戸」以外の地区はいずれも3割台である）。



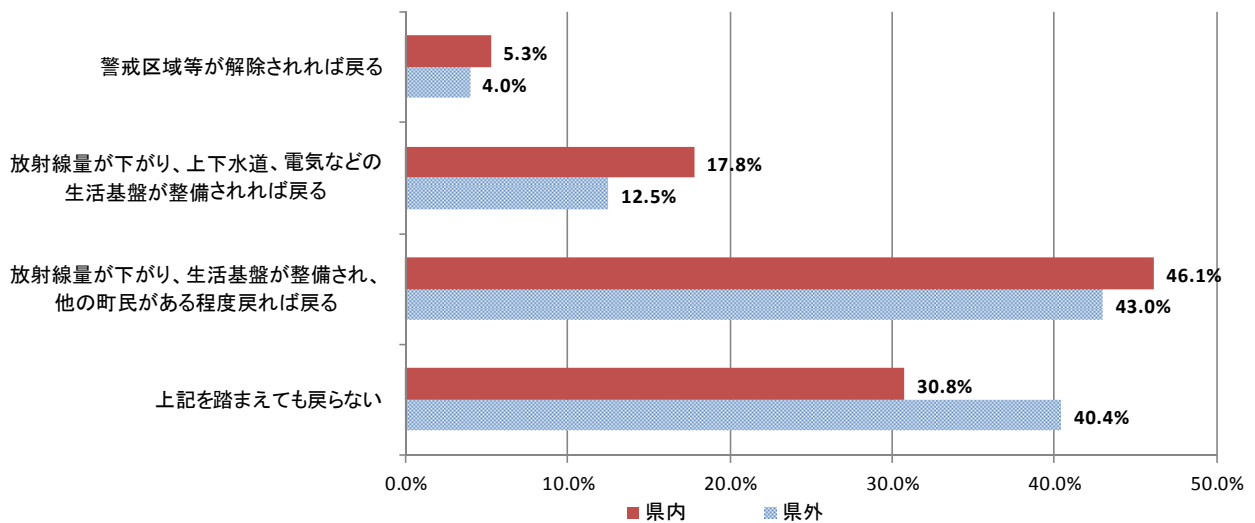
問3-2-③【帰還の意思(18歳未満の子供の有無)】

- ・18歳未満の子供がいる人の方が、「上記を踏まえて戻らない」とする比率が高い(「いない」が30.1%に対し「いる」が44.4%と高い)。子供に対する放射線の影響を不安から帰還をためらう町民が多い。



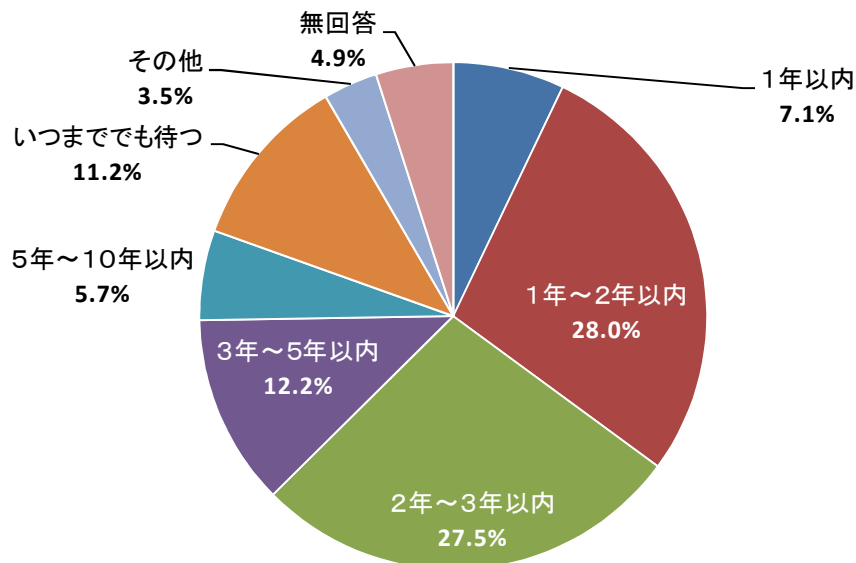
問3-2-④【帰還の意思(避難先別)】

- ・県外に避難している人の方が、「上記を踏まえて戻らない」とする比率が高い(「県内」が30.8%に対し「県外」が40.4%と高い)。放射線の影響を不安から県外に避難している町民は、帰還をためらう傾向が強い。



問3-3 どの程度の期間であれば待てますか。(「戻る」と回答された方 n=7,051人)

- ・「1年～2年以内」が28.0%、次いで「2年～3年以内」が27.5%と多い。これに「1年以内」(7.1%)を合わせると3年以内が62.6%となる。「5年～10年以内」は5.7%、「いつまでも待つ」は11.2%に留まっている。町民の多くは帰還するにしても短期間での実現を求めている。



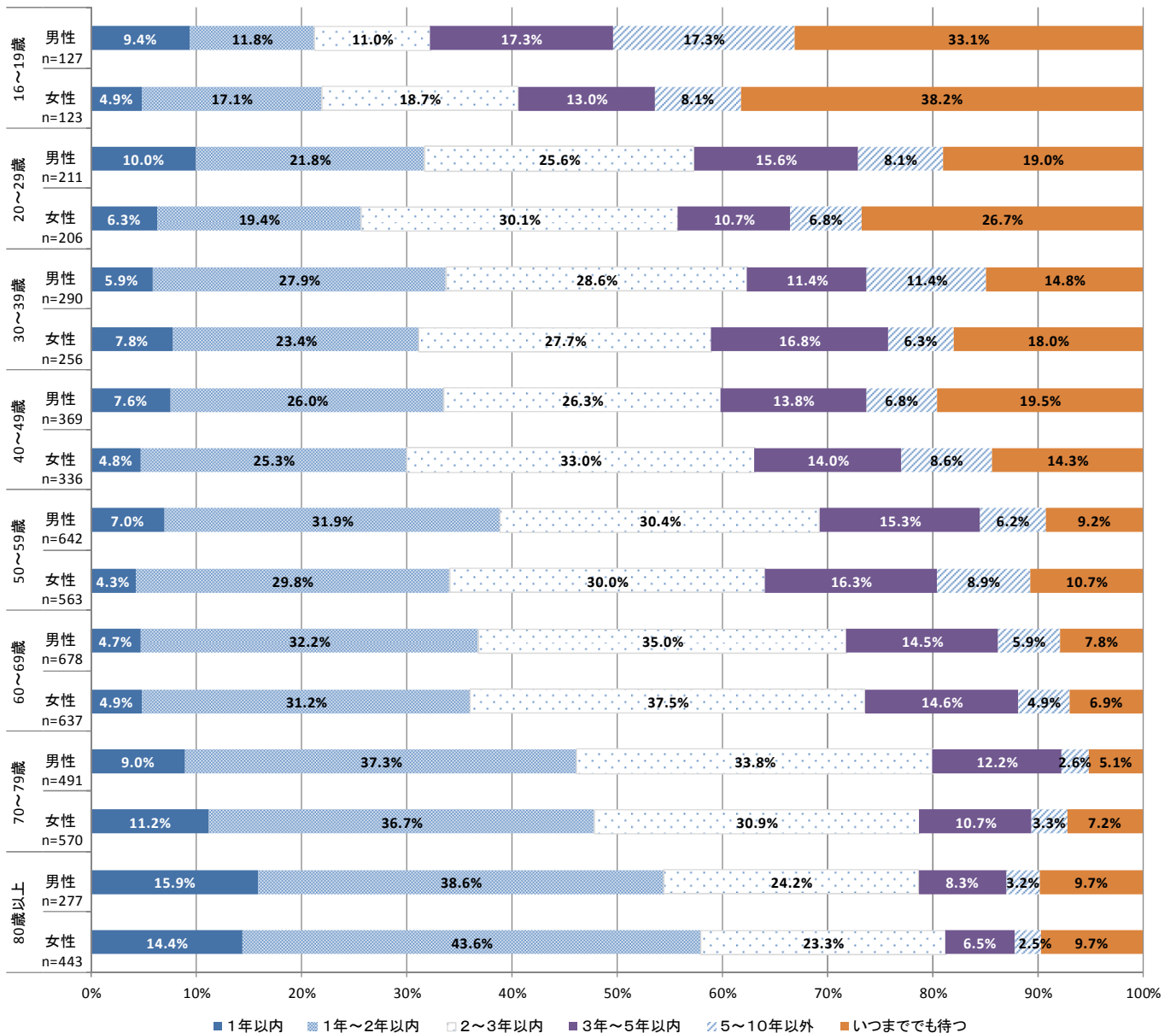
※震災発生の2011年(平成23年)3月からの期間です。

○「その他」の記述

- ・わからない、決められない。(35件)
- ・出来るだけ早い時期に戻りたい。(17件)
- ・いつまでも待つ。(12件)
- ・放射線量が下がり、安全が保障されるまで。(11件)
- ・何年で戻るのか明確にしてほしい。(9件)
- ・戻りたい。でも迷いもある。(7件)
- ・子供が成人、独立するまでの期間。(6件)
- ・就労先が戻るまで。(5件)
- ・高齢なのでいつまで待てるか不安。(5件)
- ・今すぐにでも戻りたい。(4件)
- ・子供の学校が始まるまで。(4件)
- ・帰れる状況になるまで。(4件)
- ・10～15年。(3件)
- ・借上げ住宅の期限が切れるまで。(3件)
- ・20～30年。(2件)
- ・賠償があれば待てる(2件)
- ・町民の三分の二が戻るなら。
- ・住んでいた家が老化しないまで。

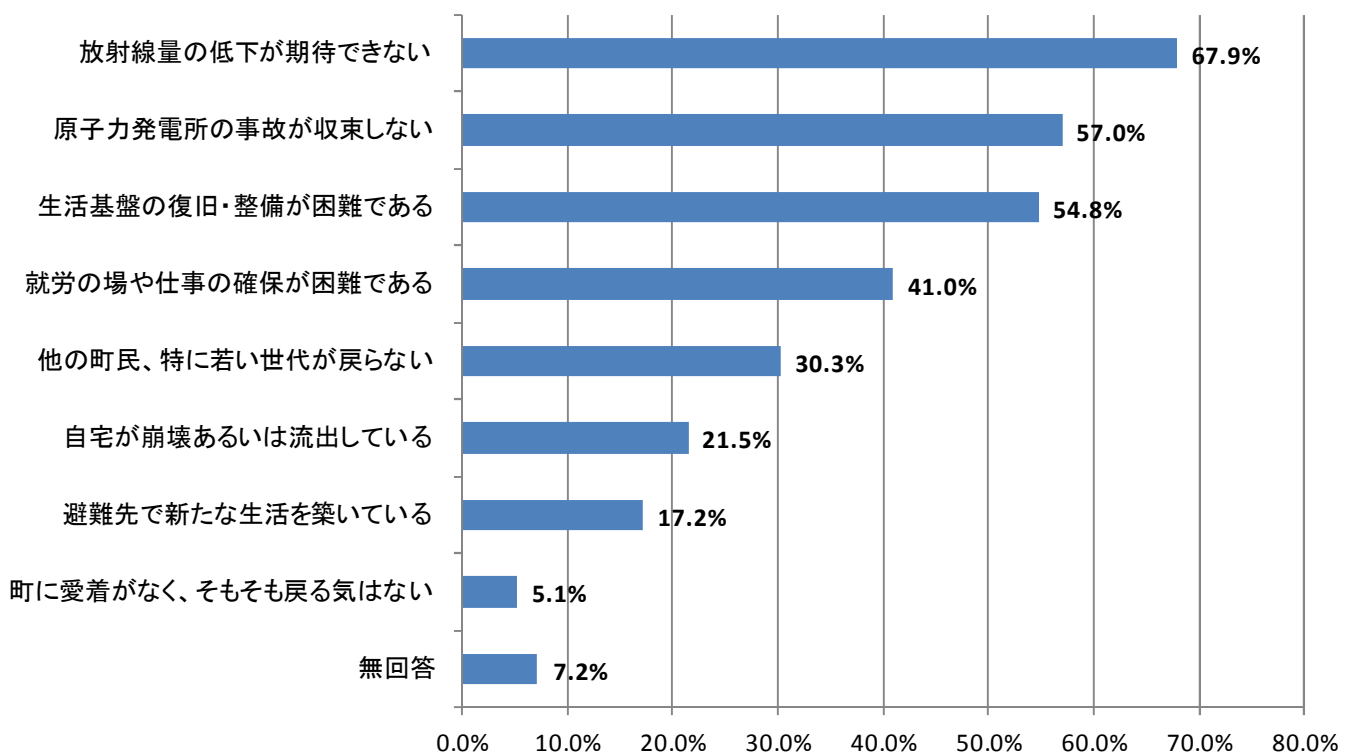
問3-3-①【帰還までに待てる期間(性別、年齢別)】

- ・「16～19歳」を除くと、いずれの年齢層でも男女ともに、3年以内が半数以上を占める。特に、60歳代以上では3年以内の比率が7割以上となる。年齢が高まるにつれて、待てる期間が短くなる傾向がみられる。また、男女ではあまり大きな違いがみられない。



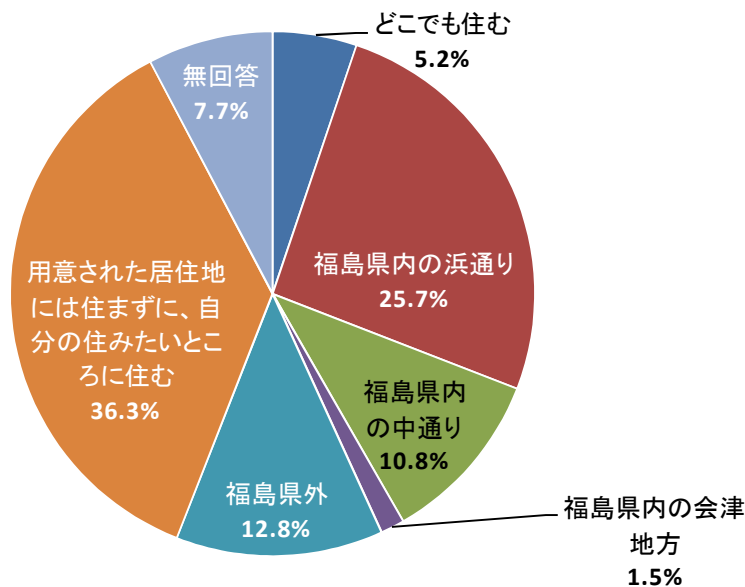
問3-4 戻るのは難しいと思う理由について教えてください。
 (「戻らない」と回答された方 n=3,616人)

- ・「放射線量の低下が期待できない」(67.9%)、「原子力発電所の事故が収束しない」(57.0%)、「生活基盤の復旧・整備が困難である」(54.8%)が比較的多い。現時点で、国等の対策が進んでいない代表的分野であり、具体的な成果が示されていないことが大きく影響していることが推察される。



問3-5 浪江町民むけに、仮に国や県等によって居住地が用意された場合、どこなら住みますか。(「戻らない」と回答された方 n=3,616人)

- ・用意されれば住む地域としては「浜通り」が25.7%、中通りが10.8%等と福島県内が38.0%と4割弱を占め、福島県外は12.8%となっている。福島県内の中では住み慣れた浜通りが大多数となっている。一方、「自分で住みたいところに住む」が36.3%であり、それぞれに応じた場所に対するニーズも高い。

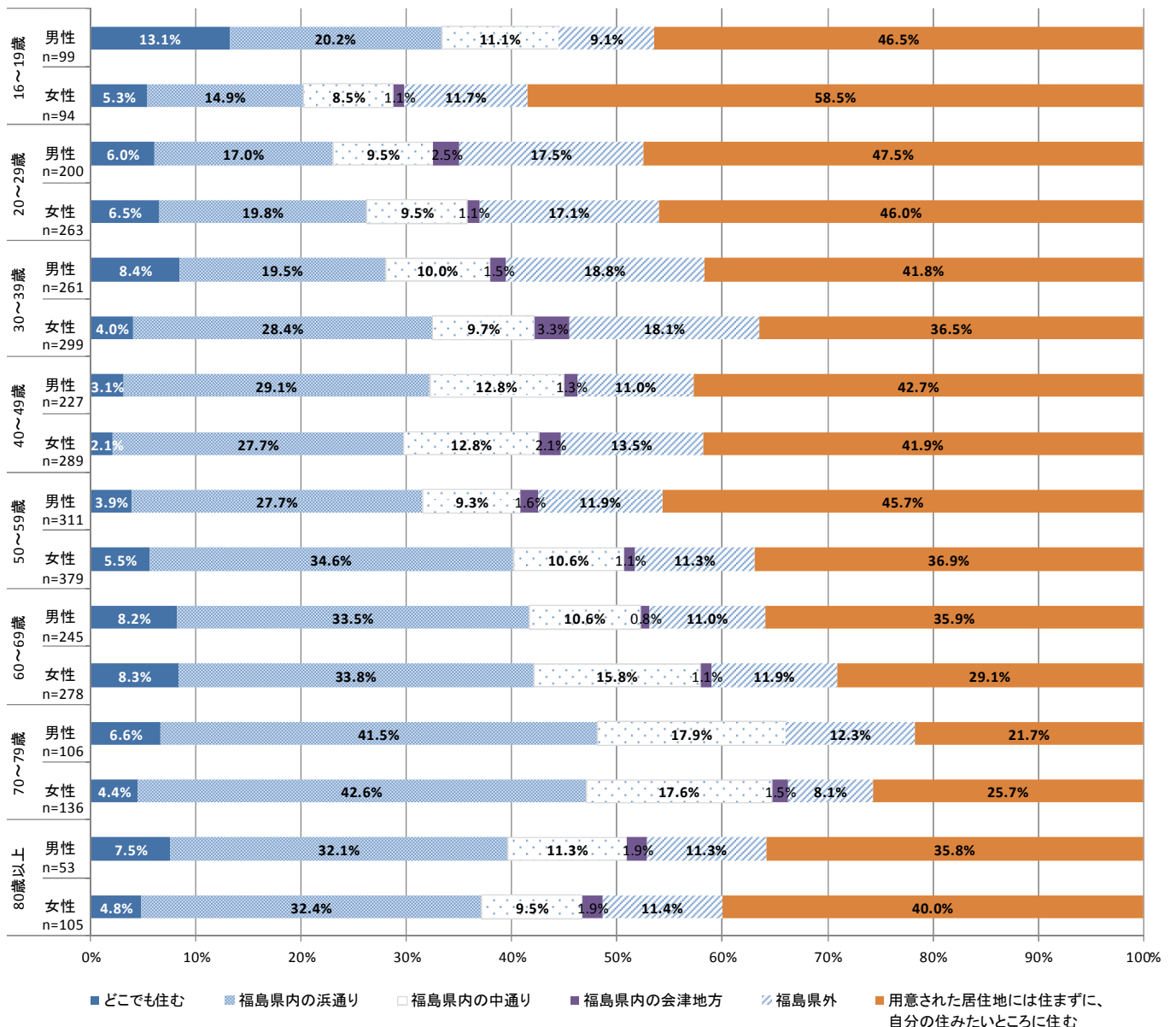


○「福島県外」の記述

- ・宮城県(44件)
- ・茨城県(27件)
- ・東京都(26件)
- ・関東地方(21件)
- ・埼玉県(17件)
- ・神奈川県(16件)
- ・千葉県(14件)
- ・栃木県(11件)
- ・放射線の不安がない場所(11件)
- ・山形県(10件)
- ・北海道(8件)
- ・新潟県(8件)
- ・未定、わからない(6件)
- ・沖縄県(4件)
- ・山梨県(3件)
- ・長野県(3件)
- ・大阪府(2件)
- ・福岡県(2件)
- ・県外ならどこでも(2件)
- ・青森県、秋田県、群馬県
- ・奈良県、岡山県、広島県、熊本県
- ・東北地方

問3-5-①【仮に居住地が用意された場合の希望居住地(性別、年齢別)】

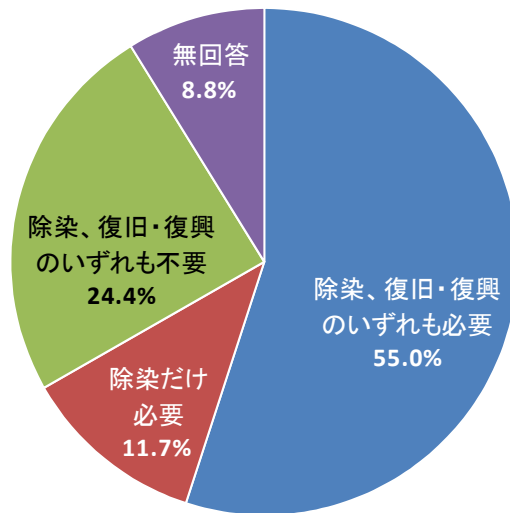
・「80歳以上」を除くと、「福島県内の浜通り」とする比率は、年齢が高まるにつれて高くなり、「70～79歳」では男女ともに4割を超える。一方、若い世代では「用意された居住地には住まず、自分の住みたいところに住む」とする比率が高い。居住地選びにあたり、就労・就学や子供の教育等を優先したいものと推測される。



問3-6 他の地域に住まわれる場合、浪江町の除染や復旧・復興は必要だと思いますか。（「戻らない」と回答された方 n=3,616人）

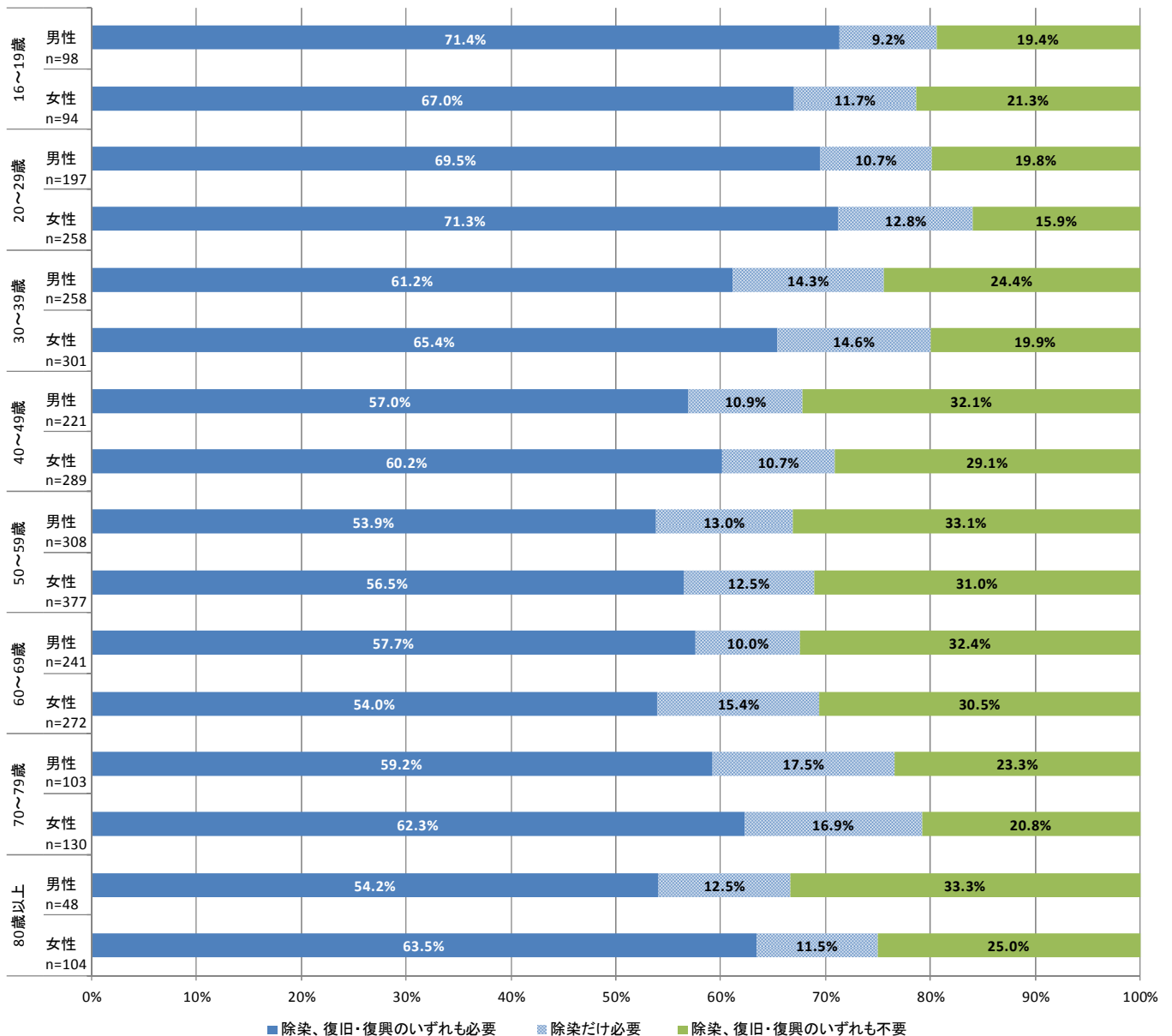
・「除染、復旧・復興のいずれも必要」が55.0%と過半を占める。「除染だけ必要」は11.7%であり、除染が必要とする方は66.7%に上る。一方、「除染、復旧・復興のいずれも不要」は24.4%*である。町に戻らないと答えた町民であっても、多くの町民が「ふるさと なみえ」の再生を希望している。

*「いずれも不要」は回答者全体の8.0%である。



問3-6-①【除染や復旧・復興の必要性(性別、年齢別)】

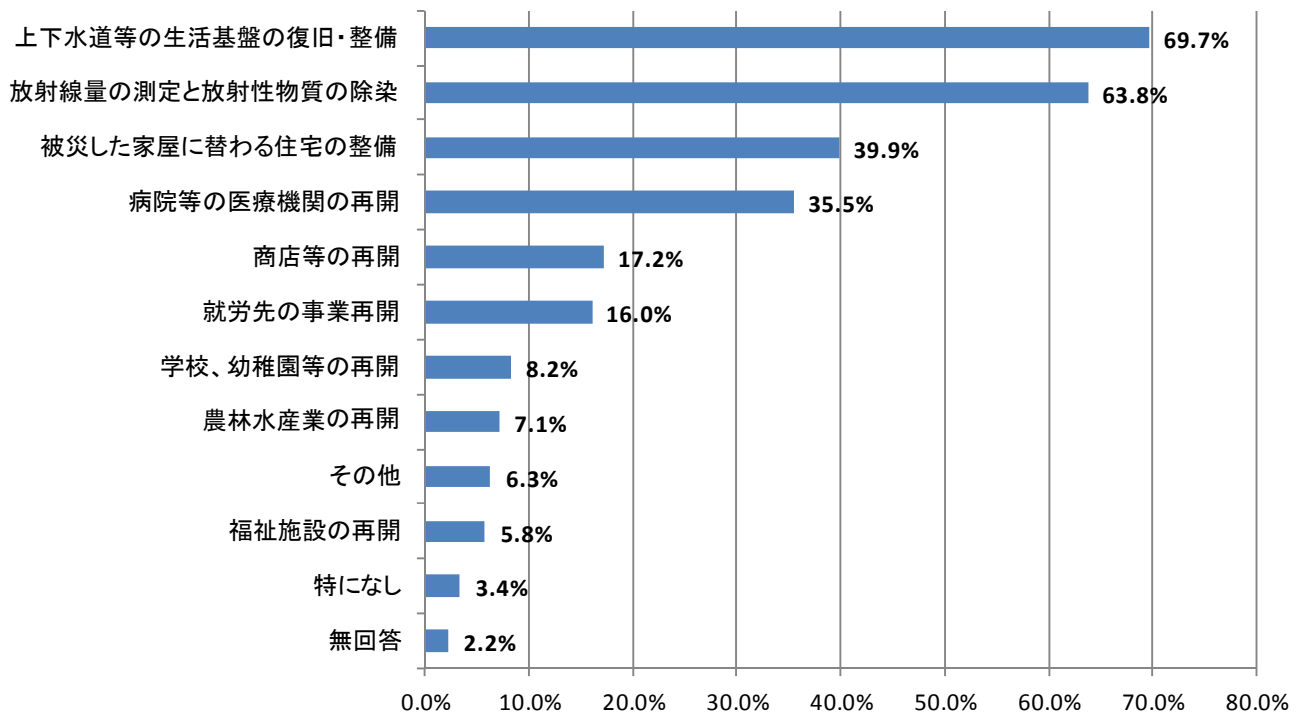
- 男女ともに、いずれの年代においても、「除染、復旧・復興のいずれも必要」とする比率が5割を超え、除染が必要は6割を超える。ただし、男女ともに「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」では、「除染、復旧・復興のいずれも不要」とする比率が3割程度と高い。



問4 浪江町の今後の復興について

問4-1 浪江町の復興に向け、当面、どのような施策が必要ですか。(複数回答)

・「上下水道等の生活基盤の復旧・整備」(69.7%)、「放射線量の測定と放射性物質の除染」(63.8%)が多い。次いで、「被災した家屋に替わる住宅の整備」(39.9%)、「病院等の医療機関の再開」(35.5%)である。



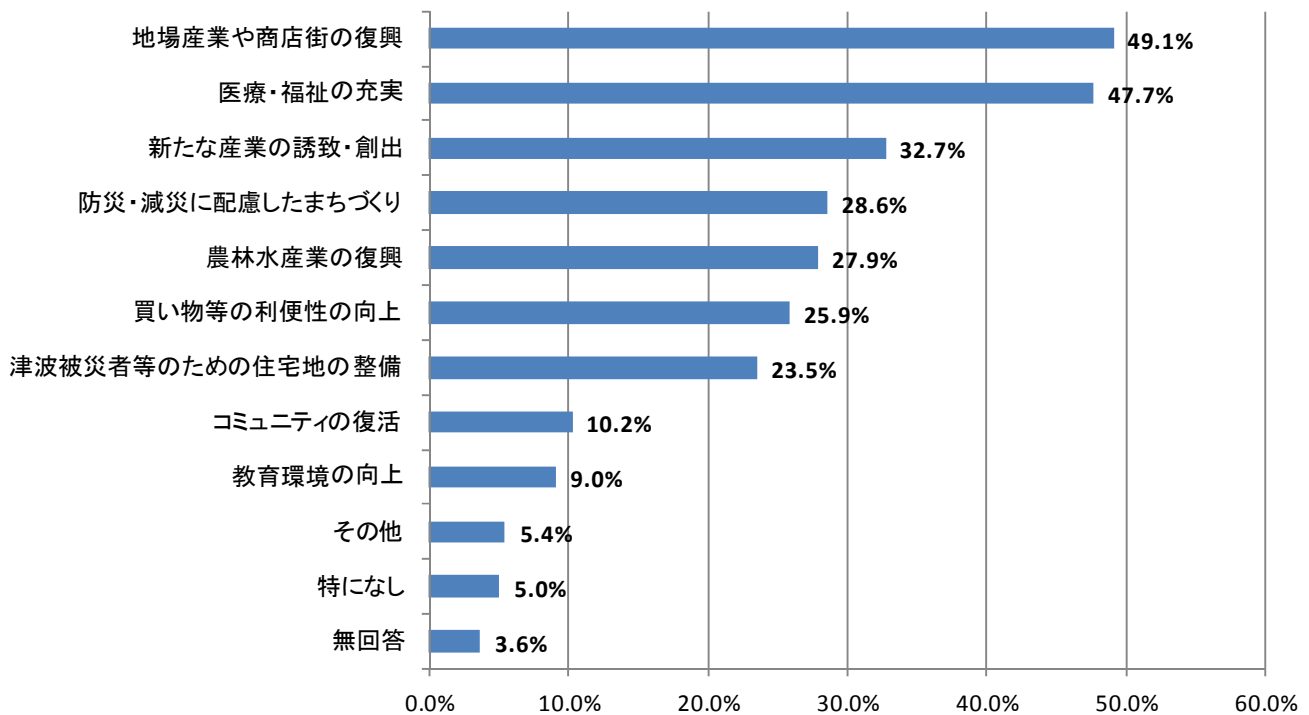
○「その他」の記述

- ・全て必要。(278件)
- ・浪江町の復興は、出来ないと思う。(58件)
- ・集団移転し、新天地で復興する。(40件)
- ・早急な賠償(土地、家、財産)。(28件)
- ・除染による放射線量の低下。(14件)
- ・原発の収束、廃止。(12件)
- ・震災前の状態に戻す。(10件)
- ・避難生活を送るための支援。(8件)

- ・わからない。(8件)
- ・上水道、井戸水の汚染調査。詳細なモニタリング、汚染マップの作成。(7件)
- ・被災した家屋等の整備や修理。(7件)
- ・就労先の支援。(6件)
- ・交通機関の復旧整備。(5件)
- ・各業種の事業再開を支援。(5件)
- ・回答欄が3つでは少ない。(5件)
- ・双葉郡一体となった復興。(3件)
- ・子供(若い世代)が安全安心して生活できる環境。(3件)
- ・警戒区域内の警備強化。
- ・ホールボディーカウンターの結果を公表し、内部被ばくの対策を考える。
- ・家畜の処分。
- ・町民との意見交換や意識を統一し、同じ方向性での町づくり。
- ・地域コミュニティの復活。
- ・復旧、復興の情報発信。
- ・人間の復興。

問4-2 浪江町の復興の方向として、どのようなまちづくりが重要ですか。 (複数回答)

「地場産業や商店街」(49.1%)、「医療・福祉の充実」(47.7%)が多い。次いで、「新たな産業の誘致・創出」(32.7%)、「防災・減災に配慮したまちづくり」(28.6%)、「農林水産業の復興」(27.9%)の順である。産業復興を重視したまちづくりが求められているようである。



○「その他」の記述

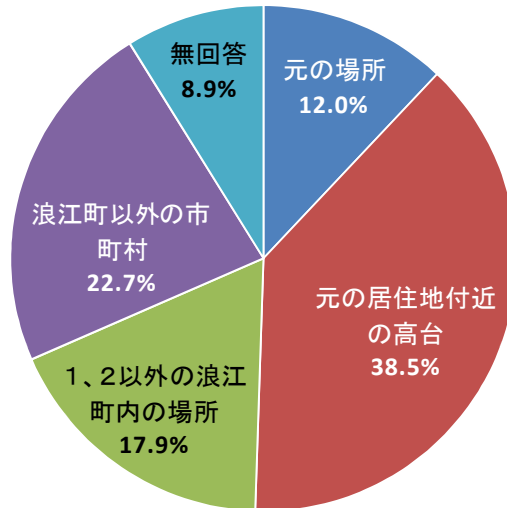
- ・全て重要。(229件)
- ・集団移転し、新天地で復興する。(34件)
- ・浪江町の復興は無理だと思う。(32件)
- ・除染をし、放射能の不安を払しょくし、安全・安心な町にする。(32件)
- ・脱原発、また原発雇用には替わる雇用先の創出。(13件)
- ・わからない。(13件)
- ・震災前の浪江町に戻すこと。(10件)

- ・回答欄が3つでは少ない。(8件)
- ・賠償(土地、家、財産)(8件)
- ・交通機関の復旧整備。(5件)
- ・原発事故の収束が最優先。(4件)
- ・中間貯蔵施設、最終処分場の誘致。(4件)
- ・放射線や除染の研究施設、企業の誘致。(4件)
- ・高福祉社会を目指す。(4件)
- ・双葉郡一体となった復興。(3件)
- ・子供(若い世代)が安心して住める町。(2件)
- ・浪江町に戻らない生き方の検討と支援。
- ・震災孤児の支援。
- ・放射能が出ている段階なので復興について考えられない。
- ・今の生活状況を考えるだけで大変で先の事まで考えられない。
- ・行政の目線を町民の目線に。
- ・原発被災の町として発信できる街づくり。
- ・合併協議。

問5 津波被害

問5-1 津波被害にあわれた方の住みたい場所 (n=942人)

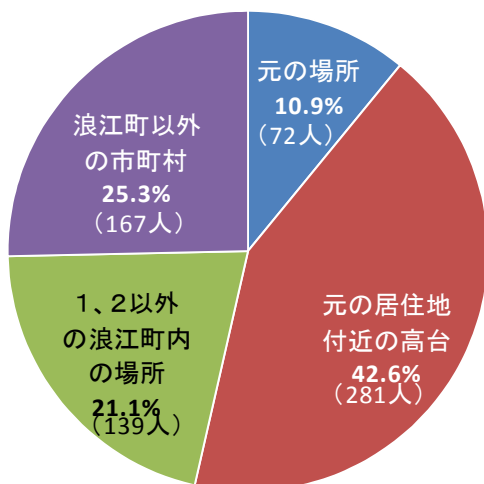
- ・「元の居住地付近の高台」が38.5%と最も多い。「元の場所」(12.0%)、「前記以外の浪江町内」(17.9%)を合わせると、浪江町内を希望する町民が68.4%を占める。一方、「浪江町以外」は22.7%である。



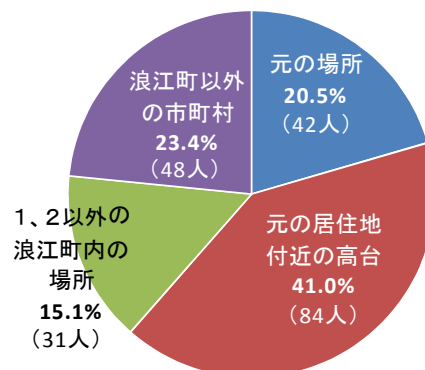
問5-1-①【津波被害にあわれた方の住みたい場所(請戸、幾世橋別)】

- ・「請戸」と比較すると「幾世橋」は、「元の場所」とする人の比率が高く、「1,2以外の浪江町内」が低い。また、「請戸」「幾世橋」ともに、「元の居住地付近の高台」とする比率は4割強である。

請戸 (n=659)



幾世橋 (n=205)



問6 自由意見

避難生活の支援に関する意見【仮設住宅に関すること(109件)】

- ・仮設住宅の設備に関する不満(狭い、寒い、駐車場が足りない等)。(54件)
- ・いわき市に仮設住宅がない。(14件)
- ・仮設での生活はプライバシーが無く、ストレスがたまる。精神を病んでしまう。(6件)
- ・復興住宅の建設を早くして欲しい。(5件)
- ・寒さ、雪などに関する不安、防寒対策への要望。(5件)
- ・仮設住宅によって設備に差があり、不満だ。(4件)
- ・浪江町に戻る前に今の住居環境などの改善を先にしてほしい。(2件)
- ・仮設に入居したら、借り上げ等の制度が利用できないのはおかしい。(2件)
- ・空いている仮設住宅を倉庫などに有効利用したい。(2件)
- ・住民同士で子供や老人に対する配慮が足りない。子供が泣くと文句を言われる。(2件)
- ・仮設住宅に住まないで、物置などの目的外利用をいている人がいる。
- ・行政区毎に強制で入居させた方が良かったと思う。
- ・自治会に対する不満。
- ・仮設住宅の防犯対策を強化してほしい。
- ・仮設の各集会所などに郵便ポストの設置を希望します。
- ・仮設住宅にチャイムを付けて欲しい。
- ・仮設の商店街を設定してほしい。他町ではやっている。
- ・仮設住宅の部屋を直したり、BSアンテナ、ウォシュレットを自費で取り付けるのに、県の担当職員が「申請しろ」といかにも「住ませてやってる」と感じる言い方をする。
- ・南相馬市にも仮設住宅を用意してほしい。

避難生活の支援に関する意見【今後の仕事、生計に関すること(136件)】

- ・就労支援及び生活基盤の確保をし、早く元の生活に近い状態に戻りたい。(39件)
- ・避難生活は、全く先が見えず不安。生活の見通しが立てられない。(31件)
- ・避難により、収入も仕事も無く生活が大変。(17件)
- ・生活保障をしてほしい。義援金・物資等(14件)
- ・借り上げ住宅の家賃がかかるようになったとき、生活していけるか不安(10件)
- ・家族とバラバラの生活であり、生活費の不安。雇用がなければ戻れない。(10件)
- ・住んでいない家の住宅ローンが大きな負担。今後住宅ローンの対応をして欲しい。(7件)
- ・定職があれば、その場に住みたい。
- ・避難地の生活に慣れ、離れづらと思うようになっている。
- ・集合住宅、老人保健施設などを充実していただき、生活していきたい。
- ・農業が出来る土地が欲しい。

避難生活の支援に関する意見【一時立入に関すること(106件)】

- ・自由に出入り出来るようにしてほしい。(条件付きでも)(39件)
- ・今後も継続し、次回の立入までの期間を短く定期的に行ってほしい。(19件)
- ・広野からも入れるようにしてほしい。(16件)
- ・制限(荷物の持ち出し、立入時間、立入車両、立入人数)を緩和してほしい。(8件)
- ・一般の人も、公益法人のように、申請制にしてほしい。(8件)
- ・小学校から荷物を持ち出したい。(4件)
- ・避難先からの交通費が大きい、帰宅が難しい。(2件)
- ・日程を希望日に合わせてほしい。(2件)
- ・バス立入の場合は、仮設住宅を巡回してから南相馬市に行ってほしい。(2件)
- ・地区毎に実施してほしい。
- ・道路の復旧をしてほしい。一時立入の際とても危険。

避難生活の支援に関する意見【支援の格差に関すること(255件)】

- どこに住んでいようと(借上げ、知人、親戚宅、社宅)平等の支援をしてほしい。また、他町村より浪江町は支援が少ないと思う。(203件)
- 県外避難者に対する支援や情報が不十分。もっと県外にも目を向けて欲しい。(23件)
- 避難先の都道府県ごとに支援の内容が違う(借上げ住宅等)。統一した支援が出来るように要望してほしい。(7件)
- 借上げ住宅にも健康相談員や職員の巡回をお願いします。(5件)
- 知人宅、親戚宅への避難にも、仮設や借上のように家電を送ってほしい。(5件)
- 世帯主以外にも支援物資等を配ってほしい。(3件)
- 世帯により支援物資の内容に差がある。平等にしてほしい。(2件)
- 借上や日赤等の支援で、上限を設け、超えたら対象外というのは間違っている。
- 津波被害も配慮して欲しい。何も無いので、資金面で苦しい。
- 今後、他県でも支援の打ち切りのところが出てくると思います。その対策もお願いします。(支援物資、義援金配布)
- 仮設住宅で空いているところが多く、借上げ住宅の前に、仮設住宅の入居をすすめ無駄を押さえるべきではないか。

避難生活の支援に関する意見【町からの情報提供に関すること(101件)】

- ・町からの情報・広報に関して、避難者全てに平等且つ速やかに様々な手法で情報発信してほしい。(46件)
- ・町住民のリアルタイムな生活状況(元気な姿・イベント・被災者に対する情報・仮設住宅の状況・放射線量等)を様々な手法で情報発信してほしい。(20件)
- ・町の情報発信を速やか且つ適正にしてほしい(今まで遅い)。(7件)
- ・国・東電の今後の対応・対策・収束状況について、その都度情報が知りたい。(6件)
- ・フォトビジョンが役に立っていない。(情報量の少なさ・表示が小さい等)(4件)
- ・借上げ住宅に避難している町民への、速やかな情報の発信・交流・支援等(町民ネットワーク)を構築してほしい。(3件)
- ・町の今後の方針等の検討結果を、速やかに情報発信してほしい。(2件)
- ・避難者(県外等遠方の方)について、話し合いの場がほしいので、時々、職員を派遣し集会等をお願いしたい。(2件)
- ・各種手続きを行う方法について、遠方(県外も含む)へ避難している町民は分からない。手続き方法も含め情報を発信してほしい。(2件)
- ・積極的に各種メディアを利用して、県外の避難者にも情報を発信してほしい。(2件)
- ・高齢者等にも理解できるような内容・方法で情報を発信してほしい。(記載されている内容が難しい・発信に電話等も利用してほしい)
- ・小さくても良いので自治会を設けてほしい。(情報収集や近況報告等月1回位の集会を開きたい)
- ・避難者の住民サービスがどこでも受けれるように、各自治体の連携をお願いしたい。
- ・町からの情報はありがたいが、もっと先の予定(1ヶ月先位)も教えてほしい。
- ・「浪江町は、情報が速やかに発信されていていいね。」と言われた。
- ・遠隔地に非難したためコミュニケーション不足を感じる。町とのつながりも今後不安。

避難生活の支援に関する意見【その他の意見・要望(270件)】

- なれない土地での避難生活はストレスがたまり、不安ばかりが募ります。(家族一緒に暮らしたい。)(43件)
- 早く元のような生活に戻れる支援をお願いします。(28件)
- 仮設住宅、借上げ住宅の期限(2年)の不安や借上げ住宅の入居要件の緩和。(33件)
- 町民が集まれる機会づくり、老人会などのコミュニケーションの場を設けてほしい。(33件)
- 各地で町民懇談会やイベント等交流出来る場をもっと設けてほしい。(37件)
- 仮設住宅ではなく、復興住宅(集合住宅)を福島県内に早く作ってほしい。(15件)
- 生活負担の支援をしてほしい。(13件)
- 医療施設、スーパー等への交通の便が悪い。(10件)
- 部屋が狭い(荷物を置くスペースがないなど)(10件)
- 避難生活で困っていることをもっと詳細に把握しケアして欲しい。(9件)
- 高齢者への、医療福祉支援体制の強化。(7件)
- 高齢者の心のケアと安定した生活を送れるよう望みます。(4件)
- 今後の方向性を早く示してほしい。(3件)
- 個人で物件を探すには限界があり、町でも借上げ住宅の紹介をしてほしい。(3件)
- 南相馬⇄いわき間の長期の通行を許可してほしい。(2件)
- 支援物資等を無駄にしないようにしてほしい。(2件)
- 高齢者のための移動手段の確保。
- 高齢者が住める集合住宅の建設。
- 高齢の有資格者などを活用して欲しい。活躍の場があれば元気になる。
- 自立へ向けて就労支援をお願いします。
- 各県で避難者支援の認識が違うので統一してほしい。
- 郵便物の転送期間延長を日本郵政に働きかけてほしい。
- スクールバス乗り場までの通学路が危険なので、もう少し乗車場所を考えてほしい。
- 避難により家の状態が日々悪化していく。この現状を加害者にも見てもらい。

- 二本松の冬を越すのに、道路凍結箇所、事故危険個所などの情報があると便利。
- 避難生活においては、浪江町のサポートを有難く思っています。物資が届きとても心が暖かくなります。

賠償に関する意見(536件)

- 土地、建物の賠償(補償)を進めてほしい。新しい土地での生活が出来ない。(229件)
- 町として、国、東電にしっかりと賠償を訴えて欲しい。(109件)
- 賠償に対する東電の姿勢に誠意が感じられない。(36件)
- 弁護団等を結成(町もしくは双葉郡一体で)し賠償に望むべき。(個人での賠償は限界がある。)(35件)
- 納得のいく賠償がされるのか不安。(30件)
- 町が主導で、町民の不利益とならないよう賠償指導・支援をしてほしい。(30件)
- 今の除染技術では線量の低下が見込めない。莫大な費用をかけるのであれば、賠償に充てるべき。(23件)
- 賠償金の支払いを早くしてほしい。(8件)
- 賠償に関する情報が少ない。町としてもっと情報発信してほしい。(4件)
- 自然環境、ふるさと、人生・将来設計というものを一方的に破棄し、奪ってしまった事に対する賠償というものは一体どうなるのか。
- 残り短い人生、賠償は1回で終わらせたい。
- 最低限の生活補償をしてもらえれば、浪江町の除染と復旧・復興に協力したい。
- 警戒区域内の住んでいない家に住宅ローンを払い続けています。国はどう対処するつもりですか。

子供の心身ケア、将来、教育に関する意見(97件)

- ・浪江町に戻りたいが、子供の将来や健康を考えると、安心して住める環境(全ての箇所で放射線量が震災以前の状態)にならなければ戻る事はできないと思う。(19件)
- ・健康状態が心配です。また、被ばく検査について、検査の場所が遠い・検査内容が他の行政と異なる点が不満です。(毎年内部被ばく検査を実施してほしい。)(11件)
- ・震災時の幼稚園・保育園・小学校・中学校生徒を集めて、以前と同じ仲間です学校生活を再開してほしい。又は、同様な仲間のつながりが持てるようにしてほしい。(10件)
- ・子供達が安心できる環境作り(健康・教育・就学等の各種支援)・心のケアを十分にお願ひしたい。(7件)
- ・避難先の生活や教育環境に馴染めない(いじめ・友達がいない・教育レベルが異なる等)為、精神的に不安定な状態にある。速やかな対策をお願いしたい。(7件)
- ・早く以前の安心して住める浪江町に戻りたい。戻してほしい。(7件)
- ・避難生活が長引けば、その地での生活習慣に慣れ親しむことになり、浪江町に戻る事はできないと思う。(4件)
- ・放射線の影響を考え、子供だけでも影響のない地域へ集団避難させる。(4件)
- ・子供の事も考え浪江町や近郊の県には戻る気持ちは無い。(3件)
- ・子供への風評被害が心配。(3件)
- ・町のバス通学と、個人での通学手当てに不公平を感じる。(3件)
- ・福島市内に、浪江小・中学校(仮設校舎)を作してほしい。(2件)
- ・放射線量の低い地域(浪江町近郊)に学校を再開してほしい。(2件)
- ・保育所等に入れずに、子供を見てくれる人がいない。保育所を再開してほしい。(2件)
- ・子供の転校等を減らすため、長期使用に耐えられる、復興住宅の建設を望む。(2件)
- ・子供の進路変更の影響を東電はどう補償してくれるのか。
- ・進学困難者等に義援金から奨学金を交付してほしい。
- ・子供たちは、福島に帰りたいので福島の高校に戻ります。自分の人生よく考えることができる歳になり頑張してほしいと思います。
- ・これから就職します。結婚もしたいです。でも出来るか不安です。

除染、モニタリングに関する意見(485件)

- ・全町民が戻れるように、早急に、計画的に、積極的に除染を進めてほしい。(187件)
- ・町内全域の除染は不可能。膨大な経費と歳月が無駄になるので、他に使った方が良くと思う。(142件)
- ・安心出来るまでの除染が可能なのか疑問。(34件)
- ・町内全体(多くの箇所)での空間・土壌放射線量の測定公表。(プルトニウム含む)(15件)
- ・除染は国・東電で実施すべき。(東電が除染に参加しないのはなぜですか?)(14件)
- ・水は高い所から低い所へ流れるため、高い所の除染が優先。(9件)
- ・除染方法の明示、順番を具体的に知りたい。また、中間貯蔵施設の場所を早く決めてほしい。(9件)
- ・線量の少ない所から始めるか、線量の低い一部だけを除染すべき。(6件)
- ・国は信用出来ないなので、町で除染してほしい。(5件)
- ・放射性物質が放出されなくなってから除染を始めたほうが良い。(5件)
- ・広大だが山全体を除染しなければならない。(3件)
- ・国として、どれだけ除染技術開発に力を入れるかが重要。プルトニウム、ストロンチウムも取り除かなければ、本当の除染とは言えない。(3件)
- ・除染が可能かどうかによって、除染するかどうかを十分検討して欲しい。(3件)
- ・町の除染には限界があるので、線量の低い他市町村の除染廃棄物を受け入れる。(3件)
- ・他で実証実験されている方法を取り入れて欲しい。(2件)
- ・家の中も除染してほしい。(2件)
- ・警戒区域を解除できれば、除染は自分達で行えば良い。(2件)
- ・水を垂れ流す等除染の方法に疑問がある。(2件)
- ・除染の結果草木が無くなってしまった土地が、安心・安全の町といえるのか疑問。(2件)
- ・除染予算の確保が心配。(2件)
- ・戻らないのであれば、除染・復興は必要ない。
- ・帰還のための除染ではなく、他県に汚染を広げないための除染をお願いします。
- ・現在の科学技術で除染が難しいなら一定区域の国家管理が必要。
- ・放射線の測定や除染をする企業を立ち上げてほしい。
- ・避難先の除染が先だと思う。

- ・素人の除染では、汚染を広げるだけ。
- ・放射線量の低減を国・東京電力に対して、しっかりと求めていただきたい。

健康管理に関する意見(59件)

- ・避難中の体と心の健康が心配。(16件)
- ・全町民を対象に被ばく量を計測してほしい。(14件)
- ・被ばくによって将来影響が出ないか心配。(14件)
- ・被ばく手帳、線量計の配布など、将来的にはこのような対応をしてほしい。(7件)
- ・避難中の健康支援の継続。(4件)
- ・浪江に戻ってからの健康被害が心配。(2件)
- ・町民検査、ホールボディーカウンター等行うときは、家族全員1回で行うようにしてほしい。
何度も出向くのは、生活費に負担が重くのしかかる。
- ・全町民にホールボディーカウンターを実施してほしい。

復旧・復興に関する意見(1,119件)

- ・復興は難しいと思う(元の浪江町には戻せない)。戻る人の復興計画だけでなく、戻らない人の復興計画や支援を。(190件)
- ・浪江町に戻るのは不可能。戻っても若い世代が帰還しないため、復興は困難。土地と建物を売却し、集団移転をして別な土地で浪江町として復興した方がいい。(171件)
- ・一日も早い復興を望む。必ず浪江町は復興出来る。(164件)
- ・除染、水の確保、道路、医療、福祉、商店街、生活基盤の回復などの復旧を確実に実施し戻れる環境にしてほしい。(86件)
- ・浪江町がどうなるのか、復興・復旧について早く道筋、方向性を示してほしい。(78件)
- ・生活基盤の復興だけでなく、雇用の場が大事。若い人が戻らなければ町は衰退し、存続できない。学校などの対策も必要。(72件)
- ・町単独では、復興はできない。再生エネルギー等の誘致、特区制度など国や東電の支援、賠償による復興。(51件)

- ・復興・復旧の目処について、詳しい内容を早く知りたい。(46件)
- ・町内・町外に新たな宅地造成や復興住宅を建設して、十分な除染後に帰還する。二段階での帰還など放射線量に応じた復興が必要。また、請戸地区など線量低いところの有効活用を検討し、線量の高いところは時間をかけて除染をしてもいいと思う。(39件)
- ・復興するにはスピードが大事。遅くなるほど町民が戻らないため難しくなる。除染・ライフラインの復旧は今すぐにでもやるべき。(31件)
- ・町単独では、復興はできない。双葉郡内、南相馬市との合併などが必要。(28件)
- ・震災前の状況に復興すること。どんなこともあきらめてはいけない。農林水産業すべての復興が大事。(24件)
- ・震災前の放射線量に下がらないと、町の復興は難しい。復興の前に、原発の収束・廃炉が先にある。(19件)
- ・元通りに復興することはできない。理想ではなく、帰還する町民に合わせた現実的な復興計画の策定が必要。広く町民の意見を聞いてほしい。(19件)
- ・山麓線、常磐道、JRなどインフラ整備が必要。(18件)
- ・戻る場合と、移転の二本立ての計画を策定する事が必要。戻らないという決定も新たに歩き出すのに必要。(15件)
- ・町に戻る前に、自宅などを清掃できるようにしてほしい。家に一時帰宅するたびに荒れているので戻るためには、住宅や店舗などの掃除、補修がしたい。(12件)
- ・復旧、復興には時間がかかる。町民の絆をつなぐためには情報発信が必要。今回の災害について、世界中に発信することが大事。(11件)
- ・請戸、幾世橋地区の復旧には高台移転等の津波対策が必要。(10件)
- ・浪江町には戻らない。でも、復旧復興はして、いつでも戻れる場所になってほしい。(7件)
- ・避難生活が長くなるのだから、生活の質の向上が必要。(5件)
- ・子供達を含め全ての町民が安心安全で生活出来る浪江町にしてほしい。(5件)
- ・復興には、新たな産業、研究施設が必要(3件)
- ・生活していくうえで、水の安全、安心は確保できるのか疑問です。(3件)
- ・復興のためには、中間処理施設等の積極的な受け入れも仕方ないと思う。一日も早く復興して欲しい。(2件)

帰還に関する意見(1,124件)

- ・浪江町に戻りたい。(381件)
- ・浪江町には帰れない。(177件)
- ・戻れるのか、戻れないのか、戻る時期などを早く明確に決定して欲しい。(153件)
- ・線量の高い浪江に戻るよりも、町ごと移動する方が現実的ではないかと思う。戻っても浪江町に未来はない。(106件)
- ・無理して、浪江町に戻っても若い世代が戻らない。(39件)
- ・別な場所に住むので、家や土地を買いとって欲しい。(38件)
- ・浪江町に戻るのか、戻らないのか、悩んでいる。(35件)
- ・町民それぞれ状況が違う。浪江町に戻るとのことだけでなく、それぞれの復興が大事ではないか。(30件)
- ・戻れる放射線量ではなく、元の線量にならなければ戻らない。町民全員が戻らなければ意味がない。(24件)
- ・子供のことや仕事のことですぐには浪江町には戻れないが、何年か、何十年後には戻れるようになってほしい。(20件)
- ・中間処理施設がある場所には帰れない。(20件)
- ・線量が低くても、原発が収束しないかぎり戻れない。(18件)
- ・戻るには、線量が低くなることだけでなく、インフラ整備や住居補修が必要。(12件)
- ・国や東電は賠償をしたくないから、基準値以下になったから戻ってくださいと言いそうで、信用できない。(9件)
- ・病院や商店が戻らないと戻れない。(8件)
- ・仕事が無ければ、戻りたくても戻れない。(8件)
- ・浪江町への帰還も避難生活の向上もどちらも大事。(3件)
- ・戻るのを急ぐのではなく、本当の意味で安全になってから戻った方がいい。(3件)
- ・浪江町に戻るための対策が遅く、足りないと感じる。(2件)
- ・津波の来ない高台で過ごしたい。(2件)
- ・線量の高い西の地域に住む人のことも考え欲しい。浪江町役場だけが低ければいいのか。

- ・津島にもどれなくても、浪江町に住めるならば戻りたい。
- ・戻る、戻らないより、役場関係者がまず戻って欲しい。そして少しずつ出入りが出来れば、みんなの心が動くはず。浪江町役場を浪江町へ。
- ・浪江町の除染を行い、放射線が確実に取り残された場合は、帰りたいと思っています。しかし、心配で帰らないという人もたくさんいます。そういった人たちの気持ちを役場としても少し考えてほしい。

原発に関する意見(208件)

- ・原発事故の収束を早期に進めてほしい。(41件)
- ・原発事故に関する(現在の状況・放射線量)正確で詳しい情報が全て知りたい。(27件)
- ・原発事故以前の生活・状態に戻してほしい。(17件)
- ・原発の早期廃炉・廃止・計画の白紙化を望む。(15件)
- ・今後原発災害が無い様にしてほしい。(3件)
- ・原発に替わる次世代発電施設の研究・計画。

役場(行政)に対する要望など(289件)

- ・町として今後の方針を早く示してほしい。(111件)
- ・アンケートに関する意見(38件)
- ・職員の電話、窓口対応の不備。対応が遅い。電話が繋がりにくい。(26件)
- ・国や東電の情報が信用できない。町は、町民のためにも正しい情報を開示してほしい。(12件)
- ・町民の意見や要望を広く聞いて欲しい(広聴)(8件)
- ・行政は町民を理解しているのか。町民目線で行政を実施してほしい。(8件)
- ・線量計を各世帯に配布してほしい。(5件)
- ・役場の出張所を近くに設置してほしい。(5件)
- ・他町村と連携して今後のことに取り組んで欲しい。(4件)

- ・大柿ダム、川、上水の調査を実施し公表してください。(3件)
- ・将来を担う子供達の意見を聞いてほしい。(2件)
- ・放射能の正しい知識を身に付ける教育を実施すべき。(2件)
- ・今後、この災害を子孫に伝えていくために、しっかりとしたマニュアル作り、防災・減災に努めてほしい。(2件)
- ・警戒区域内のパトロールを強化してほしい。
- ・保育園の再開をお願いします。
- ・成人式は浪江町でやりたい。
- ・各家庭の事情に沿った書類の郵送をお願いしたい。
- ・県外避難者の支援(住宅など)に差が出ないように国、県に要望してほしい。
- ・原発事故の収束について、町で独自に調査は出来ないのか。
- ・復興にお金を回して、無駄な物にお金を使用しない。
- ・内部被曝した子供達の責任を追求しないのは何故か。町として東電、国、県(12日夜には、津島地区に高濃度放射性物質が飛散している事を知っていたはず)に責任を認めさせるべきだと思う。
- ・健康診断など、全て福島で実施するのではなく、避難先で実施できるようにしてほしい。
- ・県外に避難していても、いろいろな相談が気軽に出来る環境を作って欲しい。
- ・避難生活では多くの人・地域にお世話になったので、恩返しの取り組みを町として事業化してほしい。(その地区の除染手伝いなど)
- ・外見だけの復旧復興でなく真心の復旧、復興をお願いします。
- ・正直今までの浪江町のやり方では、一切信用できません。賠償、復興と毅然とした対応をお願いします。
- ・正直、浪江町としての震災後の全てにがっかりさせられっぱなしです。
- ・中間処理施設を浪江町には作ってほしくない。避難区域の住民が苦しみ、区域外の住民が放射能の危険性を忘れ去るような事になってほしくない。
- ・町内の地震被害を早急に調査し公表してほしい。

町長・議員に対する要望など(217件)

- ・町長は、戻ることばかり考えないで他のことにも目を向けてほしい。(54件)
- ・町長の行動が町民には伝わらない。(50件)
- ・町長、議員は、国・県・東電に対してもっと強い姿勢で臨むべき。(36件)
- ・町議員・職員の削減を求める。(人件費の削減。)(22件)
- ・町長は、もっと若い世代の意見を聞くべきだ。(6件)
- ・町長・町議会は、浪江町と一対であり、政府・電力会社への復旧・復興・補償等について活動をお願いしたい。(9件)
- ・町議員は、町民の気持ちを受け止め真摯に活動してほしい。(5件)
- ・町議員数を削減し、復興の為の組織を設立してほしい。(若い世代・有識者の参加が必要)(4件)
- ・町議員の活動を報告してほしい。(3件)
- ・町長、議員は町民のことを真剣に考えて欲しい。仮設の生活はもうたくさんだ。

その他の意見・要望など(317件)

- ・町を震災前の状態、元の生活に戻してほしい。以前のような当たり前の幸せな生活をした
い。(39件)
- ・お墓参りが出来るようにしてほしい。(10件)
- ・浪江町を絶対に無くさないでほしい。(9件)
- ・原発災害が風化してしまわないか心配。風化しないためにも訴えていく必要があると思う。
(9件)
- ・個人個人の意識の向上が必要(東電の賠償に頼らないなど)(8件)
- ・住んでいない家屋の状態が戻るまでに悪化するのが心配。(8件)
- ・除染計画やインフラ整備の目途もたたないのに、今後のことは語れない。(6件)
- ・町民の絆(繋がり)は維持していきたい。(6件)
- ・家族がバラバラに生活しているので、早く一緒に生活したい。(5件)

- ・津島地区のことももっと考えて欲しい。(5件)
- ・屋根のブルーシートをかけて欲しい。(4件)
- ・いろいろな方々からの支援ありがとうございます。(4件)
- ・「広報なみえ」を楽しみにしています。(3件)
- ・「なみえ焼きそば」の頑張りに励まされる。(3件)
- ・降雪地区で冬を過ごすのは不安です。(2件)
- ・友人、知人とバラバラになりとても寂しい。(2件)
- ・常磐道を早急に開通してほしい(2件)
- ・職員への慰労、お礼等
- ・一時帰宅時に、敷地内、建物内部の線量を計測したら、仮設住宅周囲の線量の方が高かったです。大変残念です。
- ・水素爆発などの情報がなぜ、浪江町にはなかったのか。それが、至極無念。
- ・警戒区域内にライブカメラを付けられないですか？今の浪江の様子がみられたら町民の方々も安心するのではないでしょか。
- ・原発事故のせいで全てを失ったような気がします。